

資料 1

令和 4 年度

第 1 回森林環境保全基金運営委員会

～令和 3 年度（実績）森林環境税活用事業評価シート～

高知県林業環境政策課

目次

| | | |
|--------|------------------------------|-----|
| R3-1 | 公益林保全整備事業(木材増産推進課) | P01 |
| R3-2 | みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課) | P03 |
| R3-3 | 造林事業 [環境林整備事業](木材増産推進課) | P05 |
| R3-4 | 森林・山村多面的機能発揮対策支援事業(林業環境政策課) | P07 |
| R3-5-1 | 指定管理鳥獣捕獲等事業委託料(鳥獣対策課) | P09 |
| R3-5-2 | シカ個体数調査委託料(鳥獣対策課) | P11 |
| R3-5-3 | 森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料(鳥獣対策課) | P13 |
| R3-6 | 希少野生植物食害対策事業(自然共生課) | P15 |
| R3-7 | 環境学習推進事業(生涯学習課) | P17 |
| R3-8 | 高校生森林環境理解事業(高等学校課) | P19 |
| R3-9 | 高校生後継者育成事業(高等学校課) | P21 |
| R3-10 | 山の学習支援事業(林業環境政策課) | P23 |
| R3-11 | 森林環境情報誌作成等委託料等(林業環境政策課) | P25 |
| R3-12 | 森林環境学習フェア開催委託料(林業環境政策課) | P27 |
| R3-13 | 座談会等開催委託料(林業環境政策課) | P29 |
| R3-14 | こうち山の日県民参加支援事業委託料等(林業環境政策課) | P31 |
| R3-15 | こうち山の日推進事業(林業環境政策課) | P33 |
| R3-16 | 木育指導員活動支援事業(林業環境政策課) | P35 |
| R3-17 | 運営委員会等開催事務費(林業環境政策課) | P37 |
| R3-18 | 林業大学校(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課) | P39 |
| R3-19 | 木の香るまちづくり推進事業(木材産業振興課) | P41 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 木材増産推進課 |
| 担当者 | 本田 昇 |
| 内線 | 3146 |

R3-1

| | |
|-------|--|
| ① 事業名 | ・細目事業名：緊急間伐総合支援事業費 ・細々目事業名：緊急間伐総合支援事業費補助金 ・当該事業名：公益林保全整備事業 |
| 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| 小区分 | 森林整備 |

| | |
|----------|--|
| ③ 主な事業内容 | 1) III～XII 齢級の保育間伐による森林整備 2) 関係機関へのPR |
|----------|--|

| | |
|---|---|
| ④ | <p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成24年度</p> <p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担の軽減を図るよう取り組んでいる。 平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐材を1ha当たり10m³以上搬出することが必須条件となった。 また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。 しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度からⅦ齢級までの保育間伐が復活された。 当事業は、国庫補助事業で採択されない森林所有者のセーフティネットとして要望も強いが、人工林の齢級構成の変化に応じて、事業規模等については検討を図る必要があると考えている。</p> |
| ⑤ | <p>目的とねらい（成果）</p> <p>（本事業の目的） 水源かん養機能等の公益的機能が低い人工林の保育間伐を推進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能の効果的な発揮を図る。</p> <p>（意図すべき成果） CO₂吸収効果の高い森林を整備して荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p> |
| ⑥ | <p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>●森林所有者 ●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林であり、かつ、集約化が図れず国庫補助事業の対象とならない、III～XII 齢級の人工林の保育間伐</p> |

| | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
| | 総事業費（千円） | 22,732 | 23,844 | 15,673 | 14,185 | 18,920 |
| | 財源内訳 | | | | | |
| | 森林環境税 | 22,732 | 23,844 | 15,673 | 14,185 | 18,920 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

⑦

事業内容（手段）

- 交付対象の森林
保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林において集約化が図れず、国庫補助事業の対象とならない森林
- 交付の条件
III～XII 齢級の保育間伐による森林整備

上記の要件を満たしたものについては、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、間伐の推進について、市町村広報誌への掲載依頼や林業関係機関誌等への掲載とともに、森林環境税のPRを図るため、関係機関等に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【令和3年度計画量】 実施予定面積 288ha

【補助の流れ】

```

graph TD
    A[高知県] -- 補助 --> B[市町村]
    B -- 補助 --> C[森林組合等事業体、森林所有者]
            
```

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 木材増産推進課 |
| 担当者 | 本田 昇 |
| 内線 | 3146 |

R3-1

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|--------------------------|--------|--------|--------|--------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 事業実施対象件数 (件) | 243 | 243 | 110 | 122 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 森林整備面積 (ha) | 288 | 288 | 237 | 178 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 1ha当たりの事業コスト (間伐) (円) | 80,000 | 80,000 | 80,000 | 80,000 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|--|
| I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 当事業は、市町村を経由して事業実施主体を補助する、間接補助方式で実施しており、実施主体は森林所有者個人が主となっている。 補助事業に関する要望等の反映や事業実施に関する指導を行うこと等を考慮すると、より現場に近い市町村を経由して補助事業を進める方式が効率的であると考えます。 |
| ⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 森林資源が成熟し、所有者の森林施業が撤出間伐にシフトしていること等から、平成28年度以降保育間伐が減少傾向にあり、R3年度実績は目標値の82%の達成率となっている。 一方で、収益性等の観点から所有者個人では森林整備が行えない中で、これらを推進するための施策としては、意図した成果がつかっていると考える。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 収益性等の観点から所有者個人では森林整備が行えず、手入れが遅れている森林の整備に対する支援であり、森林の公益的機能の維持増進を進める手段としては、効率的であると考えます。 |

| 総合評価 | 説明 (担当課記入欄) |
|------------------------------------|--|
| ⑩ <input type="radio"/> A | R3目標面積288haに対して379haの要望があり、適切な予算配分を行い事業を実施することとしたが、森林所有者の事情等で実施を見送る事業地が多く発生したため、再度要望調査を行い、所有者間での過不足の解消に務めたが、R3目標面積に対して82%の達成率となった。 一方で、県が実施している各種の保育間伐事業全体の実施面積は令和2年度比で95%となっており、おおむね前年度並みの実績となっている。当事業で実績が伸びなかったのは、補助単価の高い木材安定供給推進事業での実績が多かったためである。 しかし、森林の公益的機能の維持増進を考える上で森林の整備は不可欠であり、森林所有者の負担を軽減するための支援策は有効な手段であると考えている。 今後、当事業の普及にあたっては、市町村広報誌や市町村・県ホームページを活用したPRを継続することに加え、県出先機関や補助事業者である市町村との連携をさらに深め、要望の積極的な掘り起こし及び確実な実行に取り組んでいきたいと考えている。 |
| <input checked="" type="radio"/> B | |
| <input type="radio"/> C | |
| <input type="radio"/> D | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄) |
|---------------------------------|--------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 | |
| <input type="radio"/> 事業を拡大 | |
| <input type="radio"/> 事業を縮小 | |
| <input type="radio"/> 休廃止を検討 | |
| <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 木材増産推進課 |
| 担当者 | 北山 響 |
| 内線 | 4602 |

R3-2

| | |
|-------|--|
| ① 事業名 | ・細目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・細々目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・当該事業名：みどりの環境整備支援事業 |
| 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| 小区分 | 森林整備 |

| | |
|----------|-------------------------|
| ③ 主な事業内容 | ・人工林（Ⅲ～Ⅹ齢級）の除・間伐による森林整備 |
|----------|-------------------------|

| | | |
|--|--------|--------|
| ④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成19年度 |
| <p>森林吸収源対策に向けて除・間伐を推進するため、国の造林補助金に県補助金を上乗せし、森林所有者の負担軽減に取り組んでいる。</p> <p>平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととしたため、国の造林補助金の採択要件に施業の集約化と間伐材を一定量搬出することが付された。従来採択されてきた保育（切捨）間伐は、平成23年度から国の造林補助金の対象外となる森林が出てきたため、当事業が活用され難い状況となっていた。しかし、平成25年度から保育間伐が一定の条件付きで補助対象として追加され、さらには平成26年度から、Ⅶ齢級までの保育間伐が補助対象として復活した。</p> <p>平成26年度からは、国の補助対象の拡大にあわせて、事業発足当時と比較し森林資源の構成齢級が上がってきていることから、県の補助対象齢級の上限の引き上げを行っている。</p> <p>この事業は、平成19年度から事業を開始し、PR活動も実施してきたことから、森林所有者からの要望も強い。</p> | | |

| | |
|--------------|--|
| ⑤ 目的とねらい（成果） | <p>（本事業の目的） CO2吸収効果の高い人工林のうち自助努力による森林整備が困難な森林の間伐を促進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。</p> <p>（意図すべき成果） CO2吸収源効果の高い森林を整備して荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p> |
|--------------|--|

| | |
|-------------------|---|
| ⑥ 対象（誰、何を対象とするのか） | <ul style="list-style-type: none"> ●森林所有者 ●造林事業、人工林（Ⅲ～Ⅹ齢級）の除・間伐（保育） |
|-------------------|---|

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
|------------|----------|----------|---------|---------|---------|--------|
| ② 総事業費（千円） | 17,173 | 18,314 | 20,412 | 11,105 | 10,188 | |
| 財源内訳 | 森林環境税 | 17,173 | 18,314 | 20,412 | 11,105 | 10,188 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

⑦ 事業内容（手段）

- 交付対象の森林 人工林（Ⅲ～Ⅹ齢級）の除・間伐（保育）による森林整備
- 交付の条件 造林事業の採択を受けた事業

上記の要件を満たしたものについては、造林事業と併用して補助し、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、森林環境税のPRを図るために、申請者に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【令和3年度計画量】 実施予定面積 821ha

－支援のイメージ－

高知県造林補助事業(国庫補助)

人工造林 下刈 獣害防止

除伐 保育間伐

搬出間伐 路網整備

森林環境税での継ぎ足し支援

みどりの環境整備支援事

除伐 保育間伐

補助先

森林組合等事業体、森林所有者

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 木材増産推進課 |
| 担当者 | 北山 響 |
| 内線 | 4602 |

R3-2

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|---------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|
| I 活動指標 (アウトプット) | 事業実施対象件数 (件) | 395 | 66 | 123 | 165 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 森林整備面積 (ha) | 821 | 206 | 307 | 341 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 1haあたりの事業コスト (間伐) (円) | (除伐) 37,000 | | (除伐) 37,000 | (除伐) 35,000 |
| | 算定式 | | | | |
| | | (保育間伐A) 41,000 | | (保育間伐A) 41,000 | (保育間伐A) 35,000 |
| | | (保育間伐B) 37,000 | | (保育間伐B) 37,000 | (保育間伐B) 30,000 |
| | (保育間伐C) 28,000 | | (保育間伐C) 28,000 | (保育間伐C) 23,000 | |
| | (保育間伐D) 27,000、39,000 | | (保育間伐D) 27,000、39,000 | (保育間伐D) 20,000、32,000 | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 当事業は、造林補助事業への継ぎ足し事業であり、事業を円滑に遂行できる事業体を実施主体となっている。 事業目的を効率的に達成する観点から判断すれば、妥当であると考えられる。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 目標値と実績値を比較すると、約37%の達成率で令和元年度の達成率16%からポイント低下している状況である。 当事業での実績は低かったものの、他事業の実施により成果（他事業分を含めると保育間伐全体で前年度比95%）を得ている。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 造林事業と合わせて90%相当の補助率となっており、十分な木材販売収入が期待できない中、保育時期の費用負担を支援するという事業目的に見合った単価設定であると考えている。 |

| 総合評価 | 説明 (担当課記入欄) |
|---|---|
| <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | 実績はR3目標に対し約37%であった。 一方で、県が実施している各種の保育間伐事業全体の実施面積は、令和2年度比で95%となっており、おおむね前年度並みの実績となっている。当事業で実績が伸びなかったのは、補助単価の高い木材安定供給推進事業での実績が多かったためである。 しかし、森林の公益的機能の維持増進を考えると、森林の整備は不可欠であり、森林所有者の負担を軽減するための支援策は有効な手段であると考えている。 市町村広報誌や市町村・県ホームページを活用したPRを続けており、今後も県出先機関や森林組合等事業主体との連携をさらに深め、目標値に近づけるよう取り組んでいきたいと考えている。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄) |
|--|--------------------------|
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 木材増産推進課 |
| 担当者 | 豊永 竜司 |
| 内線 | 4602 |

R3-3

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：造林事業費 ・細々目事業名：造林事業費補助金 ・当該事業名：環境林整備事業 |
| | 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| | 小区分 | 森林整備 |

| | | |
|---|--------|----------------------|
| ③ | 主な事業内容 | ・Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の保育間伐による森林整備 |
|---|--------|----------------------|

| | | | |
|---|--|---|-------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 令和2年度 |
| | <p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担の軽減を図るよう取り組んでいる。</p> <p>平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐材を1ha当たり10m3以上搬出することが必須条件となった。</p> <p>また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。</p> <p>しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度からⅧ齢級までの保育間伐が復活された。</p> <p>さらに、平成27年度にⅨ齢級までの保育間伐が可能となったが、令和元年度（平成30年度繰越）で当該事業が廃止となった。</p> <p>国庫補助事業は廃止となったものの、多くの人工林を抱える本県では、森林の多面的機能を発揮させることが必要な条件不利地等において保育間伐が必要な人工林は依然として存在している。</p> | | |
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | <p>（本事業の目的）</p> <p>森林所有者の自助努力によっては適正な整備が期待できない条件不利地等において、市町村、森林所有者、事業主体で協定を締結し、森林の多面的機能を発揮させる森林整備を行う。</p> | |
| | （意図すべき成果） | <p>条件不利地等の荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p> | |
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | <p>●森林組合等</p> <p>●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林で国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の人工林の保育間伐</p> | |

| | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
| | 総事業費（千円） | | | | 10,271 | 25,218 |
| | 財源内訳 | 森林環境税 | | | 10,271 | 25,218 |
| | | 一般財源 | | | | |
| | | その他 | | | | |

⑦

事業内容（手段）

- 交付対象の森林
保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林で国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の人工林の保育間伐
- 交付の条件
Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の保育間伐による森林整備

【令和3年度計画量】 実施予定面積 250ha

【補助の流れ】

```

graph TD
    A[高知県] -- 補助 --> B[森林組合等]
    C[市町村、森林所有者、事業主体で協定を締結]
    
```

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 木材増産推進課 |
| 担当者 | 豊永 竜司 |
| 内線 | 4602 |

R3-3

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|---------------------------|---------|---------|---------|---------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 事業実施対象件数 (件) | 60 | 41 | 72 | 55 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 森林整備面積 (ha) | 250 | 144 | 234 | 102 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 1 ha当たりの事業コスト (間伐) (円) | 101,000 | 101,000 | 107,824 | 100,240 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 当事業は、事業を円滑に遂行できる事業者が実施主体となっている。 事業目的を効率的に達成する観点から判断すれば、妥当であると考えられる。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 目標値と実績値を比較すると、約94%の達成率である。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 収益性等の観点から所有者個人では森林整備が行えず、手入れが遅れている森林の整備に対する支援であり、森林の多面的機能の維持増進を進める手段としては、効率的であると考える。 |

| 総合評価 | 説明 (担当課記入欄) |
|------|---|
| ⑩ | <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D |
| | 実績はR3目標に対し約94%であった。 市町村広報誌や市町村・県ホームページを活用したPRを続けており、今後も出先機関や森林組合等事業主体との連携をさらに深め、目標値の達成に取り組んでいきたいと考えている。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄) |
|--------|--|
| ⑪ | <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート (1)

(当初・中間・実績)

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 岡田 麻美 |
| 内線 | 4586 |

R3-4

| | |
|-------|---|
| ① 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費 ・当該事業名：森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金 |
| 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| 小区分 | 森林整備 |

| | |
|----------|--|
| ③ 主な事業内容 | 里山林の保安全管理や資源を利用する活動を支援する、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金による地域の取り組みに対し補助する。 |
|----------|--|

| | | |
|---|--------|--------|
| ④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景) | 事業開始年度 | 平成29年度 |
| <p>○平成25年度に国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金が創設され、里山林の保安全管理や資源を利用する活動を行う団体に対して支援が行われるようになった。(国費のみで県・市町村の負担必要なし)</p> <p>○平成29年度から新たに5年間の延長が行われ、令和3年度まで継続されることになった。延長に際し、事業の仕組みの見直しが行われ、地方公共団体が一定の金額(国負担額の1/3相当)を負担する案件を優先採択することとなったため、地方負担分のうち1/2を県で補助することとした。(県の負担分は、国負担額の1/6相当となる)</p> | | |

| | |
|---------------|--|
| ⑤ 目的とねらい (成果) | <p><背景と目的> 森林の有する多面的機能を発揮するためには、適切な森林整備や計画的な森林資源の利用が不可欠だが、林業の不振、山村地域の過疎化・高齢化により森林の手入れを行う地域住民が減少し、適切な森林整備等が行われていない箇所が見られる。そのため、地域住民等による森林の手入れ等の協働活動への支援を行うことが必要である。</p> |
|---------------|--|

| | |
|--------------------|------------------|
| ⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか) | 地域住民、森林所有者、自伐林家等 |
|--------------------|------------------|

| | | | | | | |
|----------|----------|----------|---------|---------|---------|-------|
| ② 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
| 総事業費(千円) | 14,275 | 14,077 | 10,395 | 6,637 | 6,268 | |
| 財源内訳 | 森林環境税 | 14,275 | 14,077 | 10,395 | 6,637 | 6,268 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

⑦ 事業内容 (手段)

○事業区分
(1) メインメニュー
【活動推進費】(初年度のみ)
現地の林況調査、活動計画の実施のための話し合い、研修等。(18,750円以内)
【地域環境保全タイプ】
(里山林保全)
・集落周辺の美しい里山林を維持するための景観保全・整備活動、松林の健全性を維持するための保全活動、風倒木や枯損木の除去、集積、処理。
(1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,000円/ha 以内)
(侵入竹除去・竹林整備)
・高密度に侵入したモウソウチク等の侵入竹の伐採・除去や利用に向けた取組。
(1年目 47,500円/ha、2年目 44,000円/ha、3年目 40,500円/ha 以内)

【森林資源利用タイプ】
里山林に賦存する広葉樹等の森林資源を木質バイオマス、炭焼き、しいたけ原木等及び伝統工芸品原料に活用することを目的とした樹木の伐採、玉伐り、搬出等。
(1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,000円/ha 以内)

(2) サイドメニュー (メインメニューと組み合わせることにより実施が可能。)
【森林機能強化タイプ】
事業の円滑な実施や森林の多面的機能の維持・発揮に必要な路網や歩道の補修・機能強化活動等。(100円/m以内)
【関係人口創出・維持タイプ】
地域外関係者との活動内容の調整、地域外関係者受入のための環境整備、これらの活動に必要な森林調査・見回り等 (8,000円/年以内)

【補助の仕組み】

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 岡田 麻美 |
| 内線 | 4586 |

R3-4

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|-----------------------|-----------------------|--------|--------|--------|--------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 事業実施団体数 | 41 | 43 | 43 | 41 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| ⑧ II 成果指標 (アウトカム) | 森林整備面積 (ha) | 360 | 233.2 | 230 | 220.2 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| ⑧ III 効率指標 (事業コスト) | 各森林整備事業1ha当たり事業コスト(円) | 29,067 | 27,441 | 27,250 | 30,141 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|--------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | ・事業実施主体を地域での活動組織とすることで、県内の幅広い地域で事業が実施できた。 ・また、申請や交付決定など、各活動組織との事務手続の窓口を地域協議会（高知県森と緑の会）とすることで効率的に業務を進めることができた。 |
| ⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | ・目標値を下回っているが、申請を行った団体は計画に沿った活動を行っており、一定成果は出ているものと考えている。 ・実施団体・森林整備面積は昨年度より増加したが、伸び悩んでいる状況ではあるため、新規活動団体の掘り起こしやきめ細かい支援を継続していく必要がある。 |
| ⑨ III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | ・おおむね目標どおりの事業コストであり、一定効果的に事業が実施された。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------------------------------------|---|
| ⑩ <input type="radio"/> A | ・同一箇所での活動は3年までとするR元年度の要件改正の影響により、実施団体・森林整備面積とも減少傾向が続いているが、昨年度と比較すると実施団体・森林整備面積ともに増加している。 ・事業の採択が行われている団体には、地域協議会（高知県森と緑の会）から適切な事業実施に向けた連絡や、事業変更の際の事前連絡の依頼を行うなど、計画どおりの事業実施に向けた喚起を適宜行っており、おおむね計画どおり活動が実施された。 ・次年度の要望調査を行う中で、7件の新たな活用団体を掘り起こした。 ・今後も実施状況の確認や外部からの参加者を増やす取組など、きめ細かい支援を行う必要がある。 |
| <input checked="" type="radio"/> B | |
| <input type="radio"/> C | |
| <input type="radio"/> D | |
| <input type="radio"/> D | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|---------------------------------|-------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 | |
| <input type="radio"/> 事業を拡大 | |
| <input type="radio"/> 事業を縮小 | |
| <input type="radio"/> 休廃止を検討 | |
| <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 鳥獣対策課 |
| 担当者 | 本田 歩 |
| 内線 | 9039 |

R3-5-1

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：指定管理鳥獣捕獲等事業委託料 |
| | 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| | 小区分 | シカ被害対策 |

| | | |
|---|--------|--|
| ③ | 主な事業内容 | 一般の狩猟者による捕獲が及ばない山岳地の国及び県指定鳥獣保護区などのような捕獲困難地域で、生息密度を高めているシカについて捕獲圧を高める必要があり、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託してシカ捕獲を実施する。 |
|---|--------|--|

| 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成30年度 |
|--|--|--------|
| <p>【現状】</p> <p>本県では、第二種特定鳥獣管理計画でシカの年間捕獲目標を3万頭と定めて、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施し、シカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標に対して2万頭前後にとどまっている。</p> <p>一般の狩猟者による捕獲が及ばない、山岳地にある国及び県指定鳥獣保護区では、近年、生息数が増えたシカによる自然植生被害が深刻な状況にあり、希少植物の消失や樹木の枯死などによる生物多様性の喪失のほか、裸地化した山肌の崩壊、土砂の流出など、森林機能の低下が問題となっている。</p> <p>【これまでの経過】</p> <p>平成28年度、29年度に国有林内鳥獣保護区でシカ捕獲を実施した結果から、地形の急峻な山岳地では、主にイノシシ猟で行われてきた「猟犬を使った巻狩り（銃猟）」に比べて、「主にくくりわなによるわな猟」が、捕獲数が多かった。</p> <p>そのため平成30年度からは猟法をわな猟に絞り、一部箱わなを併用したくくりわなによる捕獲を行った結果、30年度は20頭、令和元年度は37頭が得られたが、出現頻度の高い場所への移設等が困難等の理由で箱わなは成果が見られず、令和2年度からはくくりわなのみで捕獲を行った。</p> <p>令和2年度の実施区域は幡多区域（八面山鳥獣保護区（四万十市西土佐奥屋内（県指定鳥獣保護区）」に加え、シカの生息場所となっている「高岡区域（つづら山鳥獣保護区（四万十町大正（県指定鳥獣保護区）」にて10月25日から捕獲を開始し、合計45頭（うち10月に3頭、11月に16頭）を捕獲した。</p> <p>これらのことや、生息状況調査や過去の自動撮影カメラの映像等から、シカの出現頻度の高い時期に捕獲を開始し、積雪の状況を確認しながら可能な限りシカの出現頻度の高い地点での捕獲を行うことが重要であると考えられた。</p> <p>【事業の実施】</p> <p>令和3年度は、前年に引き続き幡多地区、高岡地区でわな猟（くくりわな）によるシカ捕獲を実施するとともに、八面山鳥獣保護区に隣接する10林班で実施する予定である（実施場所は、第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会及び事業実施計画（案）の協議を経て正式に決定される）。</p> | | |
| ④ | 目的とねらい（成果） | |
| ⑤ | <p>【本事業の目的】</p> <p>一般の狩猟者による捕獲が及ばない高標高域にある国有林内鳥獣保護区（捕獲困難地域）における集中的なシカの捕獲圧強化を、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託して実施し、くくりわなを主としたわな猟により、シカの生息密度の低下を図る。</p> <p>【意図すべき効果】</p> <p>シカの生息密度が5～10頭/km²を超えるとシカによる食害が著しくなると言われており、本事業によるシカの生息密度低下のための捕獲を実行することで、自然植生の被害軽減及び早期回復を図る。</p> | |
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | |
| | 自然植生 | |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| 総事業費（千円） | | | 4,115 | 11,417 | 11,381 |
| 財源内訳 | 森林環境税 | | 2,058 | 5,709 | 5,691 |
| | 一般財源 | | | | |
| | その他 | | 2,057 | 5,708 | 5,690 |

| 事業内容（手続） | |
|------------------|---|
| 1 予算 | 当初：12,034千円（国）6,017千円（森林環境税）6,017千円 実績：11,381千円（国）5,690千円（森林環境税）5,691千円 |
| 2 実施場所 | 幡多区域：八面山鳥獣保護区（四万十市西土佐奥屋内（県指定鳥獣保護区）および隣接する国有林10林班 高岡区域：つづら山鳥獣保護区（四万十町大正（県指定鳥獣保護区） |
| 2 執行計画 | |
| ●7月30日 | 第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・事業内容、捕獲目標数の設定等について説明、検討 ・事業実施計画（案）の説明、検討 |
| ●7月下旬～8月上旬 | 事業実施計画の策定 ・事業実施計画（案）について環境省、森林管理局、関係市町村等との協議 ・事業実施計画の報告（県→環境省） |
| ●8月5日 | 公募型プロポーザル公告 |
| ●8月 | シカの生息状況及び自然植生への被害状況等の調査（計画策定業務：国費） ・事業評価のための捕獲前のシカの生息状況等の調査 |
| ●9月3日 | 公募型プロポーザル審査委員会 ・公募対象：認定鳥獣捕獲等事業者 |
| ●9月16日 | シカ捕獲事業委託業務委託（委託先：認定鳥獣捕獲等事業者） |
| ●10月（委託契約後）～1月下旬 | 国有林内鳥獣保護区内でわな猟によるシカ捕獲の実施 ・捕獲期間：幡多地区 107日 高岡地区 109日 |
| ●2月28日 | 事業終了報告（委託先→県） ・変更契約 |
| ●3月 | シカ生息状況等の調査（計画策定業務：国費） ・シカ捕獲の事業評価のための生息状況等の調査 |
| ●3月22日 | 第2回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・シカの捕獲数や生息状況等の調査結果を基に、事業効果の評価、検証 |
| ●3月31日 | 委託業務完了 ・完成検査 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 鳥獣対策課 |
| 担当者 | 本田 歩 |
| 内線 | 9039 |

R3-5-1

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|-------------------------|------------------|---------|----------------------|---------|----------------------------------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 高岡区域捕獲日数(日) | 140 | 77 (12月15日時点) | 109 | 高岡区域 126日 |
| | 算定式 | | | | |
| | 幡多区域捕獲日数(日) | 140 | 64 (12月15日時点) | 107 | 幡多区域 112日(1林班) 126日(2・3林班) |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 高岡区域シカ捕獲頭数(頭) | 30 | 5 (12月15日時点) | 10 | 高岡区域 33頭 |
| | 算定式 | | | | |
| | 幡多区域シカ捕獲頭数(頭) | 30 | 30 (12月15日時点) | 38 | 幡多区域 12頭 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | シカ1頭の捕獲に要する経費(円) | 200,566 | 343,828 (契約額÷35頭) | 237,104 | 253,708 |
| | 算定式 事業費÷捕獲頭数 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | わな用小型発信器を利用し、効率的に捕獲を実施できた。 捕獲開始日を早めたことで捕獲頭数の増加につながった。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 幡多区域では捕獲目標30頭に対し実績38頭と目標を達成できたものの、高岡地区では捕獲目標30頭に対し10頭のみ捕獲にとどまった。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 前年度の1頭あたりの捕獲に要する経費253,708円に対し今年度は237,095円となっており、若干ではあるが前年度よりも捕獲効率は増加した。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|--|---|
| ⑩ <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | 【実績報告】 ・シカの出現頻度の高い9月から12月に集中的に捕獲できるよう、高岡地区(つづら山鳥獣保護区)では10月1日から、幡多地区(八面山鳥獣保護区及び隣接する国有林)では10月13日から捕獲を開始した。令和2年度の捕獲開始日より高岡地区で24日、幡多地区で12日早い捕獲開始日となった。 ・高岡区域ではシカの出現頻度が極端に少なく10頭の捕獲にとどまったが、幡多地区では1区域あたりの目標頭数30頭を超える38頭を捕獲できた。 ・令和4年度も積雪の影響を避けるため捕獲開始日を今年度と同等かさらに早めるとともに、シカの流入が予想されるつづら山鳥獣保護区に隣接する国有林内に捕獲範囲を広めることを検討する。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|---|-------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 鳥獣対策課 |
| 担当者 | 本田 歩 |
| 内線 | 9039 |

R3-5-2

| | |
|-------|--|
| ① 事業名 | ・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：シカ個体数調査委託料 |
| 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| 小区分 | シカ被害対策 |

| | |
|----------|---|
| ③ 主な事業内容 | 科学的根拠に基づく計画的で順応的なシカの管理を行うため、最新のシカの個体数を推定する。 |
|----------|---|

| 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 令和元年度 |
|---|--------|-------|
| <p>【現状】</p> <p>高知県は「第4期高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画（平成29年4月～令和4年3月）」を策定するにあたり、平成15～27年度までの捕獲数、糞粒調査、目撃効率及び社会的要因等のデータを基にしたベイズ推定を平成28年度に実施し、平成27年度末時点の県内のシカ生息数は平成24年度末の69,628頭に比べて増加し、適正頭数9,203頭の8倍以上である76,938頭と推定された。令和元年度に実施したベイズ推定では、平成30年度末のシカ生息数は71,120頭と減少傾向にある。</p> <p>また、高知県を3つに区分した管理ユニットごとの平成30年度末現在推定生息数は、A（県西部）管理ユニットが26,383頭、B（県中部）管理ユニットが3,271頭、C（県東部）管理ユニットが41,466頭であったが、市町村単位等での詳細な生息数の推定は未実施であった。</p> <p>【課題】</p> <p>高知県のシカの年間捕獲数は、平成26年度の21,124頭をピークに、それ以降は平成29年度の19,079頭まで年々減少し、平成30年度は19,871頭と前年に比べて増加したが、令和元年度は19,414頭と前年に比べて減少した。第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画に定める年間捕獲目標3万頭には達しておらず、近年、シカが高密度生息域から低密度生息域に分散するなど、シカの個体数管理が困難になりつつあることから、最新の生息数を推定し、公表する必要がある。</p> | | |
| ⑤ 目的とねらい（成果） | | |
| <p>【事業目的等】</p> <p>・推定結果を基に将来予測を実施し、「高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画」に定めるシカの年間捕獲目標頭数の再検討等を行う。</p> <p>・再検討した捕獲目標に基づき、各市町村が被害防止計画等で市町村ごとの捕獲目標頭数を設定するなど、今後における効果的なシカの捕獲手法に寄与する。</p> | | |
| ⑥ 対象（誰、何を対象とするのか） | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●市町村 ●市町村有害鳥獣被害対策協議会 ●高知県猟友会及び地区猟友会 ●県民 | | |

| 事業費の推移 | | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
|------------|-------|----------|----------|---------|---------|---------|
| ② 総事業費（千円） | | | | 1,538 | 15,400 | 2,100 |
| 財源内訳 | 森林環境税 | | | 1,538 | 15,400 | 2,100 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

| | |
|------------|---|
| ⑦ 事業内容（手段） | |
| 1 予算 | 当初：2,142千円（森林環境税）2,142千円 実績：2,100千円（森林環境税）2,100千円 |
| 2 執行計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●6月14日 業務委託契約 <ul style="list-style-type: none"> ・委託先：専門業者 ・契約方法：随意契約 ●7月下旬 データ提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ベイズ推定を実施するにあたり必要なデータ（令和2年度までのシカの捕獲実績及び出猟カレンダー等）を提供 ●10月5日 中間報告 <ul style="list-style-type: none"> ・シカ個体数推定値を算出 ●1月 「シカ個体数調査業務報告書（案）」の確認 ●3月31日 委託業務完了 <ul style="list-style-type: none"> ・完成検査 |
| 3 結果の公表 | <ul style="list-style-type: none"> ●4月14日 ・鳥獣行政市町村担当者会 ●4月21日 ・林業振興・環境部担当者会 ・その他 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 鳥獣対策課 |
| 担当者 | 本田 歩 |
| 内線 | 9039 |

R3-5-2

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|---------------------|--|--------------|--------------------|------------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 地域毎のシカの生息頭数を推定 | 市町村ごとにシカの生息頭数を推定 | 推定中 | 市町村ごとにシカの生息頭数を推定完了 | - |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | シカの生息頭数の動向を推定 | シカの生息頭数を将来予測する (令和5年度に平成23年度の推定生息頭数の半減) | 生息頭数の将来予測は完了 | 生息頭数の将来予測は完了 | - |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 成果品「シカ個体数調査業務報告書」一式 | 2,142,000 | 2,100,000 | 2,100,000 | 15,400,000 |
| | 算定式 成果品=事業費 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | <ul style="list-style-type: none"> 過去2年間本事業を受注し、良好な品質管理評価を受けた業者を選定して随意契約を結んだ。 これまでに実施した調査データや手法の継続性を維持して業務を遂行できた。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | <ul style="list-style-type: none"> 直近18年間のデータを用いて、ベイズ推計により高知県内のニホンジカの自然増加率や個体数等の推定を行った。市町村ごとのシカ生息頭数について結果を出すことができた。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | <ul style="list-style-type: none"> 県内の最新のシカの分布状況の把握や個体数推定を得ることができた。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------|--|
| ⑩ | <p>【実績報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に実施した現地調査(糞塊法調査70ルート、糞粒法調査110箇所)のデータ等を活用し、県内のシカの推定生息頭数を10月までに完了した。 3月31日付けで、本調査業務についての報告書の提出を受けた。 令和2年度時点での県内個体数の推定結果は74,747頭となっており、第二種特定鳥獣管理計画の削減目標に向けて現在の捕獲数が続けば令和7年度に達成でき、2,5000頭/年捕獲できれば令和5年度で達成できるといった現状を把握した。 報告書は4月14日に開催された鳥獣行政市町村担当者会で各市町村に配布し、シカ捕獲対策に役立ててもらった。また、4月21日に開催された林業全体会でも配布し、シカ推定生息頭数について周知した。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--------|--|
| ⑪ | <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 鳥獣対策課 |
| 担当者 | 本田 歩 |
| 内線 | 9039 |

R3-5-3

| | |
|-------|---|
| ① 事業名 | ・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料 |
| 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| 小区分 | シカ被害対策 |

| | |
|----------|--|
| ③ 主な事業内容 | 狩猟によるシカの捕獲実績が上位である市町村においてシカによる森林及び自然植生被害を軽減するため、狩猟期（11月15日～3月31日）のうち11月15日～概ね2月末までのシカ捕獲に対して捕獲報償金を支出する。 |
|----------|--|

| 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 令和3年度 |
|--|--------|-------|
| <p>【現状】</p> <p>本県では、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施し、シカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標頭数3万頭に対して2万頭前後にとどまっている。</p> <p>「四万十市、四万十町、大豊町、香美市、安芸市」の5市町は、H27～R2年度狩猟期のシカの捕獲頭数が全県のおよそ50%を占めており、県境付近に接しているために隣県からのシカの流入が顕著であり、シカによる天然林及び自然植生被害やスギ・ヒノキ人工林等の林業被害が多くみられる。</p> <p>近年、生息数が増えたシカによる自然植生被害が深刻な状況にあり、希少植物の消失や樹木の枯死などによる生物多様性の喪失のほか、裸地化した山肌の崩壊、土砂の流出など、森林機能の低下が問題となっている。</p> <p>【事業の実施】</p> <p>シカの狩猟期間（11月15日～3月31日間）のうち、概ね2月末まで（106日間：狩猟期間のおよそ70%）の捕獲に対して、捕獲報償金（8,000円/頭）を狩猟者に支払う。</p> | | |
| ⑤ 目的とねらい（成果） | | |
| <p>【本事業の目的】</p> <p>生息頭数の多い場所でシカを捕獲することにより、シカによる自然植生被害等で低下した森林の持つ公益的機能（水源のかん養、土砂の流出防備など）の早期回復を図り、林業被害を防止する。</p> <p>また、委託により事業を実施することで、早期に報償金の支払が行えることから、早期の捕獲が期待できる。</p> | | |
| ⑥ 対象（誰、何を対象とするのか） | | |
| 自然植生 | | |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
|------------|----------|----------|---------|---------|---------|
| ② 総事業費（千円） | | | | | 13,406 |
| 財源内訳 | 森林環境税 | | | | 13,406 |
| | 一般財源 | | | | |
| | その他 | | | | |

| | |
|------------|--|
| ⑦ 事業内容（手段） | |
| 1 予算 | 当初：21,000千円（森林環境税）21,000千円 実績：13,406千円（森林環境税）13,406千円 |
| 2 執行計画 | |
| ●10月4日 | 委託契約（5市町） ・委託先：四万十市、四万十町、大豊町、香美市、安芸市 ・契約方法：随意契約 |
| ●11月15日 | 狩猟期開始 |
| ●2月末 | 事業対象分終了 ・概ね2月末までの捕獲に対して報償金の支払 |
| ●3月 | 事業終了報告（5市町 → 県） ・変更契約（捕獲目標数に届かなかった場合等） |
| ●3月31日 | 5市町委託業務完了 ・完成検査 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 鳥獣対策課 |
| 担当者 | 本田 歩 |
| 内線 | 9039 |

R3-5-3

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|---------------------|--|-------|-------|----------------------------|------|
| I 活動指標 (アウトプット) | シカ捕獲(処理)頭数(頭) | 2,500 | 捕獲継続中 | 1,596 | - |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 狩猟期の5市町の全捕獲頭数に対する割合(%) | 70 | 捕獲継続中 | 集計中 (7月末に 確定しま す) | - |
| | 算定式 狩猟期のうち概ね2月下旬までの5市町の捕獲(処理)頭数÷狩猟期の5市町の全捕獲頭数 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 全県に占める5市町の割合(%) | 35 | 捕獲継続中 | 集計中 (7月末に 確定しま す) | - |
| | 算定式 狩猟期のうち概ね2月下旬までの5市町の捕獲(処理)頭数÷狩猟期の県全域の全捕獲頭数 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|--|
| I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 対象5市町は、H27～R2年度狩猟期のシカの捕獲頭数が全県のおよそ50%を占めており、シカによる被害が多く見られる。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 捕獲(処理)目標2,500頭に対し1,596頭の捕獲にとどまった。特に申請された捕獲(処理)頭数の少なかった四万十市を中心に進捗管理を徹底する。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 狩猟期の県全域の捕獲頭数は現在集計中で、確定が7月末の予定ですが、シカ捕獲(処理)頭数が目標を下回っていることから捕獲効率はあまり高くないことが予想される。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|---|---|
| <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D | 【実績報告】 ・対象5市町(安芸市、四万十市、香美市、大豊町、四万十町)との契約を10月4日に締結した。 ・シカ捕獲(処理)頭数は計1,596頭(安芸市340頭、四万十市348頭、香美市280頭、大豊町187頭、四万十町441頭)となり、目標数を達成することはできなかった。 ・当該5市町で狩猟を行う狩猟者(県の狩猟登録者)への周知ができていなかったことや、コロナの蔓延により狩猟者が役所へ申請に行きにくいような状況が重なり、期待する結果とならなかった。令和4年度については進捗管理を徹底し、不用額の撲滅に努める。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--|-------------------------|
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート(1)

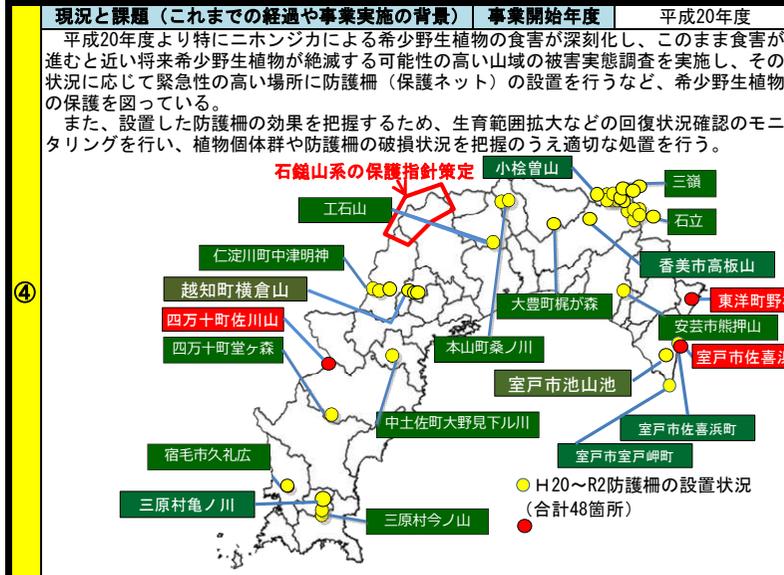
(当初・中間・実績)

| | |
|--------|----------------|
| 担当課・係名 | 自然共生課(自然保護・公園) |
| 担当者 | 齊藤 |
| 内線 | 4842 |

R3-6

| | | |
|---|-----|---|
| ① | 事業名 | ・細目事業名： 希少動植物保護対策事業 ・細々目事業名： 希少野生動植物保護対策事業 ・当該事業名： 希少野生植物食害対策事業 |
| | 大区分 | 森林環境の保全を進める事業 |
| | 小区分 | シカ被害対策 |

| | | |
|---|--------|--|
| ③ | 主な事業内容 | 1) 希少野生植物の食害状況調査、防護柵設置候補地選定、防護柵設置計画作成 2) 防護柵設置、防護柵の補修 3) 防護柵設置後のモニタリング調査 |
|---|--------|--|



⑤

目的とねらい(成果)

(事業の目的)
県内の山岳地帯において、ニホンジカによる食害が非常に拡大しており、希少野生植物にも大きな被害が発生しているとの情報が、民間の自然保護団体などから寄せられている。

県では、ニホンジカによる希少野生植物への影響を十分に把握できていないため、被害の実態を調査するとともに緊急にその対策を講じる必要がある。

(意図すべき成果)
全県的な被害状況を把握し、現地調査等を行い急激な食害進行に早急に対応し、希少野生植物の保護に努める。

⑥

対象(誰、何を対象とするのか)

県内に分布する保全上重要な野生植物

| | | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|---------|---------|---------|--------|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
| | 総事業費(千円) | 8,420 | 8,827 | 8,585 | 14,902 | 16,864 | |
| | 財源内訳 | 森林環境税 | 8,420 | 8,827 | 8,585 | 14,902 | 16,864 |
| | | 一般財源 | | | | | |
| | | その他 | | | | | |

⑦

事業内容(手段)

(1) 調査・検討・対策計画
野生植物に関する専門的知識を持つ者による希少野生植物の食害状況等の調査の実施及びその結果、専門的知見により防護柵(保護ネット)設置計画を立てる。
防護柵設置時においては現地で作業指示を行う。
【R3年度実績：調査県内8箇所、柵設置指導/3地点】

(2) 対策の実施(防護柵設置)
防護柵(保護ネット)設置計画に基づき、野生植物の専門知識を持つ者の指示のもと、防護柵設置作業を行う。
防護柵(保護ネット)の設置にあたっては、急斜面等への設置等、普通技術者による作業が困難な事態も予測されるため、管轄の森林組合に資材の調達・設置作業を委託する。
【R3年度実績：四万十町佐川山、室戸市佐喜浜、東洋町野根(3地点290.4m)、かたがひ川対策 室戸市佐喜浜外3箇所】

(3) モニタリングの実施
昨年度までに設置した保護ネットの効果を把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングや現地ヒアリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。
【R3年度実績：全箇所の点検、モニタリング調査26/48箇所】

(1年目)

調査・検討・対策計画作成

公益財団法人高知県林業振興財団に委託
シカの捕獲データや希少野生植物の分布など現地調査を行い、次年度以降の防護柵設置計画を作成

(2年目以降)

対策の実施(防護柵設置)

管轄の森林組合等に委託
設置計画に基づき、防護柵を設置

(3年目以降)

モニタリングの実施

県内コンサルタント会社に委託
植生の回復状況や、現地のモニタリング調査を実施し、防護柵の効果を把握。全箇所の防護柵の破損状況を点検し軽微な修繕も実施。

※昨年度まで県内48箇所の防護柵設置箇所、63種の希少野生植物の自生地を保護している。

(4) 石鎚山系の保護指針策定(R2~R3年) 拡充
食害被害が拡大しつつある石鎚山系において、被害が深刻化している他地域の事例を参考に、森林生物多様性の喪失を未然に防ぐための具体的な保護計画(指針)を策定する。国、高知、愛媛両県、市町村、地域住民等と情報を共有し保全対策につなげる。
【R3年度予定：保護計画の共有のための協議会、シンポジウムの開催】

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート(2)

(当初・中間・実績)

| | |
|--------|----------------|
| 担当課・係名 | 自然共生課(自然保護・公園) |
| 担当者 | 齊藤 |
| 内線 | 4842 |

R3-6

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|---------------------|---|---------|---------|---------|---------|
| I 活動指標 (アウトプット) | 食害拡大地域の現地調査箇所数(箇所) | 5 | 5 | 8 | 5 |
| | 算定式 調査箇所数 | | | | |
| | 防護柵設置(柵延長距離)(m) | 200 | 138 | 290.4 | 385 |
| | 算定式 柵延長距離 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 植生回復状況(各調査地点1㎡当りの植被率(%)の推移)(%) | 70% | 87% | 90% | 73% |
| | 算定式 植被率(%)が柵内≧柵外の方形区数÷柵内方形区調査(R2以前設置)数(%) | | | | |
| | 防護柵新設により保護される希少植物優先度点数(点) | 62 | 30 | 62 | 51 |
| | 算定式 高知県レッドリスト・環境省レッドリスト・高知県固有評価のランク別配点による点数 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 防護柵1m設置に係る経費(円) | 24,815 | 24,325 | 16,670 | 9,591 |
| | 算定式 事業費(調査+設置)÷新規柵延長 | | | | |
| | 設置済防護柵1箇所当りモニタリング経費(円) | 113,666 | 113,666 | 113,666 | 123,152 |
| | 算定式 事業費(モニタリング調査)÷柵の点検箇所(R2以前設置)数 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | ①調査→②設置→③モニタリングを専門家に委託し、各段階の調査結果を踏まえて前年度の計画に基づき実施した。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 既設柵のモニタリング調査で、柵内と柵外の植生を比較した結果、柵内の方形区が植被率、成長高、出現数とも増加している。希少植物保護の観点から有効な事業結果であると判断できる。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 当初の計画よりも多くの箇所に防護柵を設置することができたため、単位あたりのコストは割安となり、保護対象希少種の数も多くなった。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|---|---|
| <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | 「最終値」 ・計画どおり実施できた。 ・豪雨等気象災害等による防護柵や林地の被害が増加している。 ・48地点中19地点において、経年劣化や斜面崩壊により防護柵の破損が確認され、モニタリング業務の中で補修を行った。 ・高知県の希少野生植物絶滅を防ぐための有意義な取組であると考えているが、具体的な位置や生育地を公表すれば盗掘される危険もあるため取扱には注意が必要である。 ・食害被害が拡大しつつある石鎚山系において、森林生物多様性の喪失を未然に防ぐための具体的な保護計画(指針)案を作成し、森林管理局、環境省、愛媛県、関係市町村、関係団体と連携して保全の取り組みを進めることを協議した。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--|-------------------------|
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 生涯学習課 |
| 担当者 | 山崎 一也 |
| 内線 | 4629 |

R3-7

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：環境学習推進事業費 ・当該事業名：自然体験型学習事業 森林活用指導者育成事業 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 森林環境教育 |

| | | |
|---|--------|--------------------------------------|
| ③ | 主な事業内容 | 自然体験型学習事業に関する事務 森林活用指導者育成事業に関する事務 |
|---|--------|--------------------------------------|

| | | | |
|---|---|---|--|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成23年度 |
| | <p>平成23年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、社会教育施設が連携した自然体験活動や環境学習を推進する。そのためには、森林率日本一の本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育が行えるよう、指導者研修をはじめとする人材を育成するとともに、育成した人材が活躍することができる機会を創出していくことが重要である。</p> <p>また子どもだけでなく大人も含めみんなが森を大切に、自然と共生する社会の実現に向けて、県民の意識の向上を図ることが必要である。</p> <p>指導者養成研修等については、平成25年度から事業を開始し、平成30年度までで自然体験活動指導者を111名育成したため事業終了とし、令和元年度からは他事業等での人材活用を行っていく。また、令和3年度からは新たに森林活用指導者育成事業を開始する。背景としては学校林を保有する県内小中学校の約3/4程度が学校林の利活用を行っておらず遊休資産となっており、その原因のひとつとして間伐等を行う地域の人材不足があげられている。このことから、学校教育活動や社会教育活動における、森林保全に関する知識・技能や体験活動を支援することのできるスキルをもつ地域人材を育成する。</p> <p>指導者派遣事業については、平成27年度から事業を開始し、PTA行事等に森林に関わる体験活動の指導者を派遣して、子どもだけでなく大人にも山や木と関わる機会の提供をしてきたが、自然体験型学習事業内で指導者を派遣することも令和元年度で事業終了とした。</p> <p>令和元年度からは新たに自然体験型学習事業を開始し、2泊3日以上森林に関わる体験活動を含む宿泊体験活動を行う小中学校を設置する市町村に対し経費を補助していく。また令和2年度からは学校行事としての宿泊体験活動だけでなく、NPO法人や福祉施設、市町村等が広く参加者を募集し、概ね高校生以下の児童生徒を対象に、1泊2日以上宿泊体験活動に対しても経費を補助していく。</p> | | |
| | ⑤ | 目的とねらい（成果） | <p>◇自然体験型学習事業</p> <p>多くの児童生徒に森林に関する体験学習を行う機会を支援し、高知県の森林の魅力や課題を考えるとともに、体験活動・集団活動の充実を図り、子どもの生きる力を育成していく。</p> <p>事業実施にあたり指導者養成研修等を修了した指導者を招聘することを推奨することで活動の場が広がり、指導者自身の指導スキルが向上する。</p> <p>既に体験活動を行っている団体においても、新たに宿泊を伴う活動が提供されることで、活動の幅が広がるとともに、多様なプログラムを提供するため他団体から講師の招聘をすることで、団体間の交流が促進される。</p> <p>◇森林活用指導者育成事業</p> <p>学校林等を活用した除間伐作業補助、動植物の観察、植林、木登りなどの野遊び等の体験活動を支援できる地域人材を12名以上育成する。</p> |
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | <p>○自然体験型学習事業：小学生、中学生、高校生、自然体験活動指導者</p> <p>○森林活用指導者育成事業：青少年教育施設職員、地域学校協働活動参加者、地域おこし協力隊、大学生、教員等研修目的に興味関心のある方</p> | |

| | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
| | 総事業費(千円) | 1,024 | 1,648 | 2,889 | 2,365 | 2,062 |
| | 財源内訳 | 森林環境税 | 1,024 | 1,648 | 2,889 | 2,365 |
| | | 一般財源 | | | | |
| | | その他 | | | | |

| | |
|--|----------|
| ⑦ | 事業内容（手段） |
| <p>○自然体験型学習事業</p> <p>①2泊3日以上森林に関わる体験活動を含む宿泊体験活動を行う小中学校を設置する市町村に対し経費を補助することで、森林への理解と関わりを深め広げていき、森林環境教育を推進した。</p> <p>各教育事務所、市町村教育委員会、校長会、各小中学校へ事業内容や事業効果の説明を行い、周知及び参加希望を募った。</p> <p>事前事後のアンケート等で、参加児童生徒の生きる力の変容を調査した。</p> <p>学校行事として実施希望していた学校は10校（小学校8校、中学校2校）であったが、うち13校が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業実施を取りやめた。実施したのは2市町2校（小学校1校、中学校1校）であった。</p> <p>②1泊2日以上森林に関わる体験活動を含む宿泊体験活動を行うNPO団体や青少年育成団体、福祉団体、自然体験活動団体又は市町村が広く参加者を募集し、概ね高校生以下の児童生徒を対象にした事業に経費を補助することで、多くの子どもたちに森林への理解と関わりを深め広げていき、森林環境教育を推進した。</p> <p>多様なプログラムを参加者に提供するため、自団体だけのプログラム実施だけではなく、他団体や平成30年までに養成した自然体験活動指導者を招聘することを推奨した。このことで、指導者の活躍の場やスキルアップの場を提供した。</p> <p>参加者へ事後の満足度を含む団体任意のアンケート実施と分析を提出させることで、今後の実施内容改善に生かすことができた。</p> <p>民間団体等の実施希望は、6団体7企画であったが、うち3団体3企画が新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を取りやめ、3団体4企画であった。</p> <p>○森林活用指導者育成事業</p> <p>学校林をはじめとした地域の森林等、豊かな自然環境を活用し、保幼小中高の児童生徒を対象に体験を中心とした森林環境教育を推進することのできる人材育成研修を行った。</p> <p>青少年教育施設や地域おこし協力隊、市町村教育委員会、各小中学校等へ事業内容や事業効果の説明を行い、周知及び参加希望を募った。</p> <p>受講者情報を地元の市町村教育委員会地域学校協働本部事業所管課及び県立学校に提供し、次年度の活動への参画を促した。</p> <p>研修会は令和3年10月から令和4年2月まで全4回を計画し、初年度受講者12名中、修了（全4回出席）者は5名であった。</p> | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|--------------|
| 担当課・係名 | 生涯学習課 生涯学習企画 |
| 担当者 | 山崎 一也 |
| 内線 | 4629 |

R3-7

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|--|--------|------------|------------|--------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 自然体験型学習事業参加校数 | 15 | 2 | 2 | 3 |
| | 算定式 15校 | | | | |
| | 自然体験型学習事業参加団体数 | 10 | 3団体 4企画 | 3団体 4企画 | 3 |
| | 算定式 10団体 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 自然体験型学習事業参加者数 (学校対象) | 225 | 43 | 43 | 51 |
| | 算定式 15人×15校 | | | | |
| | 自然体験型学習事業参加者数 (民間団体等対象) | 180 | 130 | 95 | 55 |
| | 算定式 18人×10団体 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 自然体験型学習事業 参加者一人 あたりのコスト (学校対象) | 8,888 | 6,465 | 6,465 | 11,607 |
| | 算定式 予算額(補助金額) ÷参加者数 | | | | |
| | 自然体験型学習事業 参加者一人 あたりのコスト (民間団体等対 象) | 15,000 | 13,331 | 14,252 | 14,181 |
| | 算定式 予算額(補助金額) ÷参加者数 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|----------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input checked="" type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 学校を対象とした実施希望校は小学校8校、中学校2校の計10校であり、目標値の15校には届かなかった。その背景としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、2泊3日の長期宿泊を自粛していることが予想される。民間団体等を対象とした実施については、学校に比べると多いが、3団体から中止があった。 |
| II 成果 (意図した成果は上 がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 学校を対象とした実施人数は、昨年度実績を下回り、目標値にも届かなかった。小規模校は比較的实施しやすいが、中規模校以上は計画を中止する傾向がある。民間団体等を対象とした実施人数についても、キャンセルが発生し、当初の参加人数より減少したが、昨年度実績と比べると増加できた。 |
| III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 1人当たりのコスト内容は（体験活動に係る費用・宿泊代・保険代等）であり、比較的に低額で実施できた。民間団体等については、キャンセル者（当日も含む）が出たことにより、1人当たりのコストが予定よりも高くなった。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------|--|
| ⑩ | <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D |
| | ○ 実績結果 (自然体験型学習事業) 学校行事として実施する事業については、実施申込は目標の15校あったものの、新型コロナウイルス感染拡大防止の理由から、13校が実施を取りやめた。令和3年9月27日付文書により修学旅行等を含む宿泊を伴う行事において、本事業の活用を促す文書の発出を行ったが、実施は2校にとどまった。 民間団体等が実施する事業については、6団体7企画の申込があったが、うち3団体が新型コロナウイルス感染拡大防止を理由に実施を取りやめた。実施済みの団体は3団体4企画であった。 泊を伴う体験活動については、まだまだ慎重な姿が窺える。 (森林活用指導者育成事業) 初年度を受講者12名であり、地域おこし協力隊や青少年施設職員、大学関係者など幅広く参加いただいたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、受講者が自主的に活動を自粛することとなったため、修了(全4回出席)者は5名であった。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--------|--|
| ⑪ | <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 高等学校課 |
| 担当者 | 仙頭 |
| 内線 | 3300 |

R3-8

| | |
|-------|--|
| ① 事業名 | ・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生森林環境理解事業 ・当該事業名：高校生森林環境理解事業 |
| 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| 小区分 | 森林環境教育 |

| | |
|----------|---|
| ③ 主な事業内容 | 河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。 |
|----------|---|

| ④ | <table border="1"> <tr> <th>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）</th> <th>事業開始年度</th> <th>平成20年度</th> </tr> <tr> <td> 体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることができるようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。 課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含め、より効果的な環境教育を推進していく必要がある。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成20年度 | 体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることができるようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。 課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含め、より効果的な環境教育を推進していく必要がある。 | | |
|--|---|------------------------|--------|--------|--|--|--|
| | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成20年度 | | | | |
| 体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることができるようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。 課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含め、より効果的な環境教育を推進していく必要がある。 | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| ⑤ | 目的とねらい（成果） 四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、四万十川源流域で独特の森林植生の学習や、森林の管理が下層植生にどのような影響を与えるかの調査、森林総合研究所、牧野植物園でのフィールドワークをとおして、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶ。 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工品を製作し地域の保育園等に配布し将来の木材需要の向上を図る。 |
|---|---|

| | |
|---|---------------------------------------|
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） 県内河川及び山（生徒） |
|---|---------------------------------------|

| | | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|---------|---------|---------|-----|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
| | 総事業費（千円） | 718 | 617 | 702 | 820 | 933 | |
| | 財源内訳 | 森林環境税 | 718 | 617 | 702 | 820 | 933 |
| | | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | | |

| | |
|---|---|
| ⑦ | 事業内容（手段） 学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工品の製作を行い地域へ配布する小学生・保護者対象の木工教室の開催 |
| | 実施校 ・四万十高等学校 ・高知北高等学校 ・幡多農業高等学校 ・高知農業高等学校 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間 **実績**）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 高等学校課 |
| 担当者 | 仙頭 |
| 内線 | 3300 |

R3-8

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|--------------------|--------|--------|--------|--------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 取組回数(回) | 55 | 19 | 63 | 49 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 取組回数(回) | 55 | 19 | 63 | 49 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 取り組み1回あたりに要する経費(円) | 22,163 | 64,158 | 14,795 | 16,743 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 森林環境に関する事業は数種類の取組があり、各校、地域の環境等により工夫して事業を実施した。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 高校生が直接体験する事業や木材を有効活用する事業など、学校や事業により取組の内容が大きく異なることから参加人数の把握は困難であるため、実施回数で成果を見ている。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 参加人数を正確に把握することは困難であることから年間を通した事業の実施回数で算出しているが、実施事業の全体としては実施効果は高いと判断する。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------|---|
| ⑩ | <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D |
| | ・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた事業の一部を実施することができなかった学校があるが、新たに高知農業高校で事業の実施ができたことにより、実施回数は目標値を上回った。 ・ここ数年、新型コロナウイルス感染症により活動が制限されている状況となっているが、引き続き感染症対策をとりながら予定していた活動が実施できるよう努める。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--------|--|
| ⑪ | <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 高等学校課 |
| 担当者 | 仙頭 |
| 内線 | 3300 |

R3-9

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生後継者育成事業 ・当該事業名：高校生後継者育成事業 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 森林環境教育 |

| | | |
|---|--------|--|
| ③ | 主な事業内容 | 林業関係学科に学ぶ生徒を対象に、林業に関する資格取得を推進し、将来の林業を担う人材の育成を図る。 |
|---|--------|--|

| | | | |
|---|---|--------|--------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成20年度 |
| | 林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことができたが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。 | | |

| | | |
|---|-----------------|--|
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | 将来の林業従事者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。 |
| | 対象（誰、何を対象とするのか） | 資格取得（生徒） |

| | |
|---|----------|
| ⑥ | 資格取得（生徒） |
|---|----------|

| | | | | | | | |
|-----|----------|----------|----------|---------|---------|---------|-----|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
| | 総事業費（千円） | 362 | 335 | 330 | 305 | 417 | |
| | 財源内訳 | 森林環境税 | 362 | 335 | 330 | 305 | 417 |
| | | 一般財源 | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| | | |
|---|----------|--|
| ⑦ | 事業内容（手段） | 車両系建設機械運転技能講習の受講、可搬式林業機械研修の受講 |
| | 実施校 | <ul style="list-style-type: none"> ・高知農業高等学校 ・幡多農業高等学校 ・窪川高等学校（中止） ・橋原高等学校（中止） |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|-------|
| 担当課・係名 | 高等学校課 |
| 担当者 | 仙頭 |
| 内線 | 3300 |

R3-9

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|----------------|--------|--------|-------|-------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 取組回数(回) | 7 | 5 | 4 | 6 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 参加人数(人) | 86 | 61 | 43 | 48 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 参加者1人あたりに用する経費 | 10,232 | 14,427 | 9,690 | 6,358 |
| | 算定式 事業費÷参加人数 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である | 森林関係学科における実施であり、妥当と考える。 |
| | <input type="radio"/> B. 概ね妥当である | |
| | <input type="radio"/> C. あまり妥当でない | |
| | <input type="radio"/> D. 妥当ではない | |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input checked="" type="radio"/> A. 上がっている | 資格取得の成果としては十分な結果が出ている。 |
| | <input type="radio"/> B. 概ね上がっている | |
| | <input type="radio"/> C. あまり上がっていない | |
| | <input type="radio"/> D. 上がっていない | |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い | 林業関係への従事者育成は大変重要であり、後継者育成への観点からも効率性は高い。 |
| | <input type="radio"/> B. 概ね高い | |
| | <input type="radio"/> C. あまり高くない | |
| | <input type="radio"/> D. 高くない | |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|---|--|
| ⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | ・例年、車両系建設機械、可搬式林業機械の講習は夏期休業期間中に森林研修センターで実施している。一部の学校では新型コロナウイルス感染症対応等により実施ができなかった学校があったため、参加者数は計画を下回ったが、実施した学校では生徒が参加しやすいよう、学校を会場にするなどの工夫を行い、講習を実施した。また、伐採等の業務に係る刈払機取扱作業安全衛生教育講習など、例年にない取組を実施した学校もあった。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--|-------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 西森 萌愛 |
| 内線 | 3216 |

R3-10

| | |
|-------|---|
| ① 事業名 | <ul style="list-style-type: none"> ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：山の学習支援事業費補助金 山の学習支援事業活用促進事業委託料 |
| 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| 小区分 | 森林環境教育 |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
|----------|----------|----------|---------|---------|---------|--------|
| 総事業費(千円) | 12,929 | 13,665 | 16,805 | 17,535 | 19,413 | |
| ② 財源内訳 | 森林環境税 | 12,929 | 13,665 | 16,805 | 17,535 | 19,413 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

| | |
|----------|--|
| ③ 主な事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間等において、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等に対して、学校独自の取り組みを進めるために補助する。 ・山の一日先生支援事業に取り組む団体に対して補助する。 ・R2年度に作成したハンドブックを活用したプログラム作成のための学校ごとの支援や、ボランティア団体の活動状況の調査を委託する。 |
|----------|--|

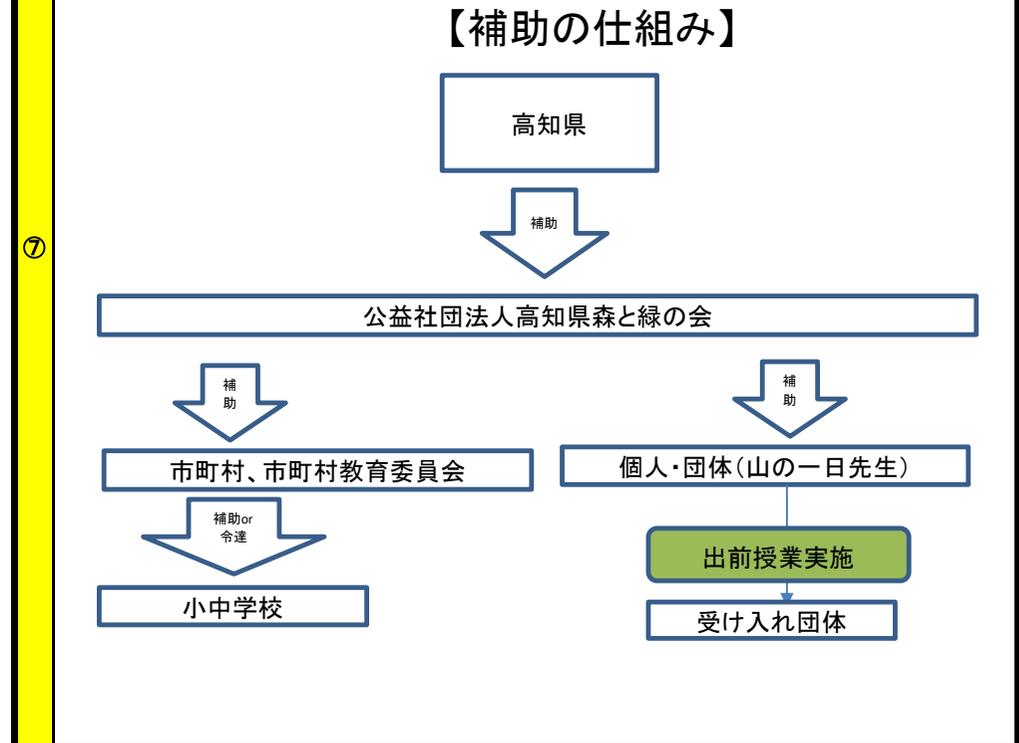
⑦ 事業内容（手段）

○事業区分
 (1) 「総合的な学習の時間」等において年間を通して森林環境学習を実施する事業
 (2) 山の一日先生を派遣する事業
 (3) 当事業を活用する学校を増やすため、個別の学校に対して学習プログラム作成を支援、併せて、ボランティア団体の活動状況を調査

| | | |
|---|--------|--------|
| ④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成16年度 |
| ○森林率全国一を誇る本県において、昔から培われてきた「木の文化」を身につけ活動できる人材を継続的に養成する必要がある。 ○木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えていくことによって、木の文化県構想の定着を図っていく必要がある。 ○近年、子どもたちが自然の中で遊ぶ機会は少なくなってきている。 ○山の学習支援事業を活用する学校等が固定化されていることから、新たに事業を活用する学校を増やす必要がある。 | | |

| | |
|--------------|--|
| ⑤ 目的とねらい（成果） | <目的> 森林県である本県の子どもたちに「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子どもたちが森林への理解や関心を深め広げ、将来にわたって山や森林を守り、大切に思う心を育む。 |
|--------------|--|

| | |
|-------------------|-----------|
| ⑥ 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民（小中学生等） |
|-------------------|-----------|



令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 西森 萌愛 |
| 内線 | 3216 |

R3-10

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|-------------------|--------|-------|--------|-------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 学校数(校) | 60 | 63 | 64 | 66 |
| | 算定式 | | | | |
| | 事業回数(回) | 100 | 94 | 100 | 90 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 県民参加人数(人) | 11,000 | 9,906 | 10,234 | 6,360 |
| | 算定式 | | | | |
| | | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 参加した県民一人当たりの経費(円) | 2,140 | 2,389 | 1,572 | 2,294 |
| | 算定式 事業費÷県民参加人数 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 森林や山への理解と関心を深める積極的な取り組みを行うことができるカリキュラムが各校で組まれた。また、山の一日先生派遣事業についても、回数は減少しているが、様々なプログラムが実施された。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 県民参加者数は目標値に達していないものの、コロナ禍であった昨年度から回復し、コロナ前のR元実績の9,229人を上回っており、成果はあったと考える。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 目標値(2,140円/人)を下回る実績(1,572円/人)となっており、効率的な事業実施ができたと考える。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------|--|
| ⑩ | <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D |
| | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等を活用する山の学習支援事業及び山の一日先生派遣事業はほぼ目標どおり事業が進められた。 山の学習支援事業活用促進事業委託では、教育委員会や学校への訪問、電話にて事業説明や取り組み状況の聞き取りを行い、R4年度の事業実施予定校を18校増加させることができた。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--|-------------------------|
| ⑪ | |
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 西森 萌愛 |
| 内線 | 3216 |

R3-11

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境情報誌作成等委託料 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| | | |
|---|--------|--|
| ③ | 主な事業内容 | 森林環境税やこうち山の日に関する取組など、森林や山に関する情報誌の作成等を行う。 |
|---|--------|--|

| | | | |
|---|--|--------|--------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成19年度 |
| | 森林環境税を活用して、県民参加の森づくりを推進して来ているが、若い年齢層や子育て年齢層では森や山への理解や関心あまり高くない状況にある。 | | |

| | | |
|---|------------|---|
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | <目的> ○森林環境税を活用した事業の取組や、森林や山に関する情報を分かりやすく広く伝えることによって、県土の84%を占める森林の公益的機能やその大切さを県民各層が認識し、森林環境税への理解を深めてもらうことを目的に平成29年度まで「mamori」の発行を行った。 ○平成30年度からは、タイトルを「もりりん」として、森林環境税を活用した取組だけでなく、県内での様々な取組等を紹介するとともに、動画など誌面以外のコンテンツとも連携したPRを行うことにより、森林の持つ多面的な機能をターゲットする若い世代に、より理解を促すことを狙いとしたリニューアルを行った。 |
|---|------------|---|

| | | |
|---|---|---------------------------|
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民（特に①20～30代②小中学校の全児童・生徒） |
| | <理由> ①森林環境税のアンケートで認知度が特に低かったことに加え、住宅購入などで木材利用が期待できる世代であるため | |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
|----------|----------|----------|---------|---------|---------|-------|
| 総事業費（千円） | 6,860 | 4,264 | 5,994 | 8,293 | 7,317 | |
| 財源内訳 | 森林環境税 | 6,860 | 4,264 | 5,994 | 8,293 | 7,317 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------------------|---|--------|----------|-------|-------------|--|------------------|-------|----------------|--|-------------|-------|---------|--|-----------------|
| ⑦ | 事業内容（手段） | <p>【森林環境情報誌作成等実施委託】</p> <ol style="list-style-type: none"> 企画提案書を業者に提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結 年度内に発行予定。発行予定部数 各8万3千部 県内を中心に各市町村、量販店、道の駅等と県内全小中学校、3歳以上の全保育・幼稚園児の各家庭に教育委員会を通じて配布 <p>【令和3年度の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行：6号、7号 各8万3千部 配布先：○県内の量販店、市町村役場、道の駅、県内全小中学校の各家庭など約2,400箇所 ○こうち山の日推進事業、森林環境学習フェアなど森林に関するイベント など <p>（過去の情報誌の掲載内容）</p> <table> <tr> <td>平成30年度</td> <td>山に触れ、楽しむ</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>生物多様性と水源かん養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>雨による土砂流出や山地災害の防止</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>学校林と施設紹介、森林環境税</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山の一日先生と緑の募金</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>自然界との共生</td> </tr> <tr> <td></td> <td>林業大学校紹介と森に関わる仕事</td> </tr> </table> | 平成30年度 | 山に触れ、楽しむ | 令和元年度 | 生物多様性と水源かん養 | | 雨による土砂流出や山地災害の防止 | 令和2年度 | 学校林と施設紹介、森林環境税 | | 山の一日先生と緑の募金 | 令和3年度 | 自然界との共生 | | 林業大学校紹介と森に関わる仕事 |
| | 平成30年度 | 山に触れ、楽しむ | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和元年度 | 生物多様性と水源かん養 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 雨による土砂流出や山地災害の防止 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和2年度 | 学校林と施設紹介、森林環境税 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 山の一日先生と緑の募金 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和3年度 | 自然界との共生 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 林業大学校紹介と森に関わる仕事 | | | | | | | | | | | | | | | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 西森 萌愛 |
| 内線 | 3216 |

R3-11

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|-------------------------|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 情報誌発行部数 (部) | 166,000 | 166,000 | 166000 | 166,000 |
| | 算定式 83,000部×2回 | | | | |
| | 情報誌発行回数 (回) | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 読者アンケート回答数 (件) | 1,000 | 416 | 711 | 914 |
| | 算定式 | | | | |
| | | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 発行一回当たりの経費 (円) | 3,658,435 | 3,658,435 | 3,658,435 | 3,658,435 |
| | 算定式 契約額 (7,316,870円) ÷ 年間総発行数 | | | | |
| | 一部当たりの経費 (円) | 44 | 44 | 44 | 44 |
| | 算定式 契約費 (7,316,870円) ÷ 年間総発行部数 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 事業受託者は公募型プロポーザル方式により、業務遂行能力の高い企業を選定し、受託したため、満足 of いく内容となった。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | アンケートの回答数は、711件と年間目標の1,000件を下回る結果であり、また、昨年度よりも実績は低いものとなった。しかし、毎号安定して300件以上のアンケートへの回答があることから、本誌が読者に定着してきていると考える。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 目標どおりの事業コストで実施することができた。 |

| 総合評価 | 説明 (担当課記入欄) |
|--|--|
| ⑩ <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境情報誌については、第6号を7月に、7号を12月に発行した。 ・アンケートでも好意的な回答が多く、県民に森林の機能や県の取組への理解や関心を深めていただくために重要なツールになってきている。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄) |
|---|--------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート (1)

(当初・中間・**実績**)

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-12

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境学習フェア等開催委託料 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| 事業費の推移 | | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
|----------|------|----------|----------|---------|---------|---------|-------|
| 総事業費(千円) | | — | 8,917 | 9,120 | 1,148 | 9,462 | |
| ② | 財源内訳 | 森林環境税 | — | 8,917 | 9,120 | 1,148 | 9,462 |
| | | 一般財源 | | | | | |
| | | その他 | | | | | |

| | | |
|---|--------|---|
| ③ | 主な事業内容 | 森林環境学習に関するフェアや森林環境保全バスツアーを開催し、広く県民に森林環境保全の意識を理解し、関心を深めていただくための情報発信等を行う。 |
|---|--------|---|

| | | |
|---|--|--|
| ⑦ | | 事業内容(手段) |
| | | <p>1 委託先の決定：企画提案書を業者に提出させ選定(プロポーザル方式)し、委託契約を締結</p> <p>2 開催内容の決定：森林環境学習フェアは、県、民間団体などが参加するフェア実行委員会を月1回程度開催し、県民に森林が果たす公益的機能の重要性を伝えるための開催内容を検討し、決定。</p> <p>3 開催日程・内容</p> <p>(1) 森林環境学習フェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開催日程・場所 <ul style="list-style-type: none"> ・10月30日(土)、31日(日)の2日間、高知市中央公園で開催 ○会場全体 <ul style="list-style-type: none"> ・会場内のエリアごとにテーマ性を持たせ、学べる内容がわかるような会場構成とする。 ・林業関係者に参加いただき、森の仕事について紹介することで、林業への理解を深める催しを検討。 ○森林環境学習ブース(6~12小間) <ul style="list-style-type: none"> ・来場者が森林環境を学べる場として、森林や環境に係るワークショップや木工体験を行うブースを設置予定。 ・森林の果たす役割について紹介するパネル展示も行う。 ・また、大学生や高校生など若い世代にもブース出展の依頼を検討。 →新型コロナウイルス感染症の状況により学生への出展依頼は見送ったが、体験やワークショップを行うブースに多くの来場者が集まった。 ○ステージイベント <ul style="list-style-type: none"> ・例年同様にステージイベントの実施を検討。 <p>(2) 森林保全体験バスツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林や林業現場を実際に見て触れて体験していただく、バスツアーを実施。 ○11月、3月頃に年2回、定員は各50名として実施予定。 →新型コロナウイルス感染症の状況により中止。 |

| | | | |
|---|---|--------|--------|
| ④ | 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景) | 事業開始年度 | 平成30年度 |
| | <p>・森林環境税の創設から15年が経過したが、森林環境保全の理解が、日々森林への思いをはせることが少ない特に都市部の方々にまで浸透しているとは言い難い。</p> <p>・平成28年度に実施した課税期間の延長に係る県民世論調査や企業アンケートは5年前より課税期間の延長に対する賛成(どちらかと言えば賛成の意見も含める)の意見が下がっていた。</p> <p>・県民世論調査等においても「県民に知られるような情報発信の仕方をもっと検討すべき」との意見もあり、従来の情報発信の方法を見直す必要がある。</p> | | |

| | |
|---|---|
| ⑤ | 目的とねらい(成果) |
| | <p>・3年連続累計約2万人を集客したイベントであった「木造住宅フェア(もくもくランド)」を全面リニューアルし、林業・森林環境学習に関するフェアを開催。</p> <p>・フェアでは木材利用の普及啓発と併せて、森林環境学習を行う機会を新たに加えるなど内容を見直し、今まで浸透できていない方々も含め、幅広い県民に森林が果たす公益的機能の重要性を理解していただくことを目的として実施する。</p> <p>・それに加え、林業や山側の実態を知り、理解を深めていただくため、林業関係のブースの出展を計画するとともに、ボランティア活動をはじめとする森林保全や林業に関する様々な事業や取組への継続的な関わりをきっかけとしていただくために、それらの活動を会場内で紹介する。</p> <p>・また、高知市内で実施する学習フェアと、実際に森林や林業の現場を訪れ、見て触れて体験する森林保全体験バスツアーを一体的に開催することにより、単に楽しむだけでなく、森林や林業の状況を含めて関心を持ち、理解していただく機会としたい。</p> |

| | |
|---|-----------------|
| ⑥ | 対象(誰、何を対象とするのか) |
| | 県民 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-12

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績値 |
|----------------------|---|--------|-------|-------|-------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | フェア開催回数 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| | 算定式 | | | | |
| | バスツアー開催回数 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 学習フェア来場者数(人) | 22,000 | 5,000 | 5,000 | 0 |
| | 算定式 | | | | |
| | バスツアー参加者数(人) | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 学習フェア来場者一人当たり に要する経費(円) | 410 | 1,797 | 1,797 | - |
| | 算定式 (フェア開催経費/来場者数) 8,983,700円÷5,000人= | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|----------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 幅広い方々に森林の持つ多面的機能や森林環境保全の重要性を理解し、木材利用や森林への関心を深めていただく機会を提供するイベントして有意義なものとなっている。 |
| II 成果 (意図した成果は上 がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中ではあったが2年ぶりの開催となり、目標には届かないものの、約5,000人の参加となり、啓発効果があった。 ・バスツアーについては、最後まで実施を模索したものの、感染防止のため中止せざるを得なかった。 |
| III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | コロナ禍により、参加者数が伸びなかったため、目標値に対して効率性は低いものとなった。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------|--|
| ⑩ | <p>【最終報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の森林環境学習フェアは、10月30日(土)、31日(日)に高知市中央公園で開催した。来場者は2日間で約5,000人と目標は下回ったが、コロナ禍で昨年度は中止となったイベントを2年ぶりに開催できたことで、啓発効果があった。 ・今年度は会場全体を「森にふれよう」、「森をささえよう」、「木と暮らそう」、「木をつかおう」の4つのエリアに分け、会場全体で学習することができる会場の構成とすることで、来場者に木や森のことについて様々な観点から知ってもらうことができた。林業環境政策課のブースでは、ヒノキの小木を入れた袋の中で二酸化炭素濃度の変化を測定する実験を行い、中の二酸化炭素濃度が下がることで、植物による二酸化炭素吸収効果が目に見えて分かるため、来場者に好評だった。 ・会場に来られない人に向けて、動画配信も行ったが、今年度は単なる会場ステージの様子の配信となってしまったため、内容については今後さらに工夫していきたい。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--------|--|
| ⑪ | <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・**実績**）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-13

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：座談会等開催委託料 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| 事業費の推移 | | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
|----------|-------|----------|----------|---------|---------|---------|
| 総事業費（千円） | | — | — | — | — | 62 |
| ② | 財源内訳 | | | | | |
| | 森林環境税 | — | — | — | — | 62 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

| | | |
|---|--------|---|
| ③ | 主な事業内容 | 1) 座談会（4回）の企画・運営 2) シンポジウム（1回）の企画・運営 3) 企業アンケートの実施・集計 4) 広報・PR活動 |
|---|--------|---|

| | | |
|---|--|---|
| ⑦ | | <p>事業内容（手段）</p> <p>1) 座談会（4回）の企画・運営 地域の森林や木材産業などの現状を知り、次期の課税に向けた県民の考え方や意見を聞く機会を設けるとともに、これらの意見等を受けて今後の森林環境税の在り方や用途についての取りまとめを行う。 ○第1部…税についての説明と質疑（県による説明） ○第2部＝地域の森林等に関する意見発表（地域の代表による意見発表） ○第3部＝地域の森林等の課題や森林環境税の用途等に関する意見交換会（テーマ毎に、ファシリテーターと参加者による意見交換など）・取りまとめ</p> <p>2) シンポジウム（1回）の企画・運営 森林環境税を活用してこれまでに実施されてきた事業の紹介や座談会で出された意見の紹介などを行い、今後の税のあり方や用途について検討・意見集約するシンポジウムを開催する。</p> <p>3) 企業アンケートの実施・集計 森林環境税を負担している県内法人を対象に、森林環境税のあり方についての考え方を聞くためのアンケートを実施し、今後の森林環境税の在り方や用途についての取りまとめの際の参考とする。</p> <p>4) 広報・PR活動 メディア等を活用して広く広報し、出来る限り多くの県民の参加を促す。</p> <p>（経過）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月11日 委託業務プロポーザルの公募開始 ・令和3年7月1日 プロポーザル審査委員会の開催 ・令和3年7月5日 審査結果通知 ・令和3年8月31日 見積書の提出依頼 ・令和3年9月10日 見積書の提出 ・令和4年2月1日 契約締結（契約額8,679千円） |
|---|--|---|

| | | | |
|---|---|--|---------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 令和3年度限り |
| | 令和3年度は、森林環境税の課税期間満了の1年前の年であり、「今後の森林環境税のあり方」について、県民や企業から意見等を聞く必要がある。 | | |
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | 座談会の開催と、企業アンケートの実施により、県民や県内法人の森林環境税に関する意見を収集し、「今後の森林環境税のあり方」の参考とする。 また、シンポジウムを開催し、座談会で出された意見の集約を行うとともに、本県の森林を持続可能な形でいかにして次代へ引き継いでいくなどを考えるきっかけを提供する。 併せて、座談会やシンポジウムの開催により、税の趣旨である「山を守り、森を育てる」などへの県民の意識の向上を図る。 | |
| | ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・**実績**）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-13

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績値 |
|----------------------|-------------------------------|--------|-------|-------|-------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 座談会の回数 (回) | 4 | 0 | 0 | - |
| | 算定式 | | | | |
| | シンポジウムの開催 | 1 | 0 | 0 | - |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 座談会の参加者 (人) | 120 | 0 | 0 | - |
| | 算定式 | | | | |
| | シンポジウムの参加者 (人) | 100 | 0 | 0 | - |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 当事業に参加した県民一人当たり に要した経費 (円) | 42,223 | - | - | - |
| | 算定式 | | | | |
| | | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|----------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input checked="" type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | ・過去の森林環境税の期間延長の際に、座談会・シンポジウムを実施しており、林業関係者や地域の声を聞く貴重な機会であるとともに、取組を広報する機会であったが、コロナ禍における手段としては、他の手段の検討も必要だった。 |
| II 成果 (意図した成果は上 がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input checked="" type="radio"/> D. 上がっていない | ・森林環境税と森林環境譲与税の用途の整理など、座談会やアンケートで提示する県からの説明内容の検討に時間を要しているため、実施しなかった。 |
| III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | ・実施していないため、評価に適さない |

| 総合評価 | 説明 (担当課記入欄) |
|---|---|
| ⑩ | 【R3年度実績】 ・森林環境税と森林環境譲与税の用途の整理など、座談会やアンケートで提示する県からの説明内容の検討に時間を要したため、令和3年度から繰り越した。 ・座談会、シンポジウムについては、開催方法を検討していたが、実施に向けて3～4か月程度時間を要すること、新型コロナウイルスの感染状況も不透明なこともあり、実施しない予定。 ・企業アンケートは県民世論調査と合わせて、8月頃実施予定。 ・森林環境税の広報について、検討中。 |
| <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input checked="" type="radio"/> D | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄) |
|--|--------------------------|
| ⑪ | |
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間 **実績**）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-14

| | | |
|---|-----|---|
| ① | 事業名 | <ul style="list-style-type: none"> ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日県民参加支援事業委託料 ：ホームページ保守管理委託料 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| | | |
|---|--------|---|
| ③ | 主な事業内容 | 1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動及び森林保全ボランティア活動紹介パネル展の開催 2) 公式ホームページの構築 |
|---|--------|---|

| | | | |
|---|---|--------|--------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成19年度 |
| | ・「こうち山の日」の活動をはじめとする「県民参加の森づくり」を推進するため、県内の森林保全ボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」を事業実施団体に定め、会員団体が県内全域で森林保全活動を積極的に展開しているが、会員の高齢化などにより活動が停滞状況にある。 ・森林保全ボランティア活動に対する広報が十分ではないことから、近年参加者が減少していることもあり、平成27年度に公式ホームページ「森・ヒト・こうち 応援ネット」を開設し、森林ボランティア活動への広報を積極的に実施している。 ・また、平成29年度には甬喜ヶ峰森林公園で森林整備を体験できるバスツアーを開催し、参加者111人を森林保全活動への参加に誘導することができ、以降毎年度バスツアーを実施し、多くの方に参加をいただいていたが、バスツアーは令和3年度から森林環境学習フェアと一体的に実施することにした。 | | |

| | | |
|---|-----------------|--|
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | ・幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動などの取り組みを通じて、幅広く県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。 ・「森・ヒト・こうち 応援ネット」に県民参加の森づくり活動に関する情報を一元的に掲載し、イベント検索機能を付加することで利用者の利便性を高めるとともに、森林環境保全活動ツアーを開催することで森林保全ボランティア活動への参加者を増やす。 |
| | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民 |

| | | |
|---|-----------------|----|
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民 |
|---|-----------------|----|

| | | | | | | | |
|-----|----------|----------|----------|---------|---------|---------|-------|
| ② | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
| | 総事業費（千円） | 2,085 | 3,041 | 4,175 | 2,713 | 2,704 | |
| | 財源内訳 | 森林環境税 | 2,085 | 3,041 | 4,175 | 2,713 | 2,704 |
| | | 一般財源 | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| | | |
|---|----------|--|
| ⑦ | 事業内容（手段） | 1) 森林保全ボランティア活動 ①森林保全ボランティア活動の企画・運営 県内の森林保全ボランティア団体が幅広く県民からの参加を募り森林保全ボランティア活動を実施 ②ホームページにより活動内容を広報 「森・ヒト・こうち 応援ネット」により①の開催案内などの森林保全ボランティア活動のPRを実施 <こうち山の日県民参加支援事業委託料>により森林保全ボランティア活動を支援など ・賃金やボランティア保険など、①に係る経費の助成 ・②の運営 ③森林保全ボランティア活動を紹介するパネル展の開催 ・県民に森林保全ボランティア活動を知ってもらい、より多くの県民にボランティア活動に参加してもらうため、オーテピア高知図書館の展示スペースで1ヶ月程度、森林保全ボランティアの活動の様子を写した写真パネルを展示 ・森林環境学習フェアでも同様の展示を行い、県民に森林保全ボランティア活動のPRを行う予定。 ※ 委託先：こうち山の日ボランティアネットワーク 事業費（R3決算）：2,403千円 2) 公式ホームページの保守 <インターネットホームページ保守管理委託業務>により「森・ヒト・こうち 応援ネット」の保守管理の実施 ※ 委託先：株式会社アークデザイン研究所 事業費（R3決算）：300千円 |
|---|----------|--|

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・**実績**）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-14

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績値 |
|----------------------|------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 森林保全に関する活動回数（回） | 46 | 31 | 40 | 46 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 県民参加人数（人） | 450 | 446 | 595 | 651 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 当事業に参加した県民一人当たり に要する経費（円） | 6,007 | 6,067 | 4,542 | 4,167 |
| | 算定式 決算額(2,703千円)÷指標値 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|----------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | <p>・当事業の実施主体は県内の森林保全ボランティア団体の総括組織である「こうち山の日ボランティアネットワーク」で、事業を実施する団体としては妥当である。</p> |
| II 成果 (意図した成果は上 がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | <p>・ボランティア活動の回数は目標には届かなかったものの、県民参加人数は目標値を超えている。 ・コロナ禍のアウトドア意識の高まりか、HPの訪問回数も増えてきている。</p> |
| III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | <p>昨年よりも下がったものの、効率性は目標値を上回っている。</p> |

| 総合評価 | 説明（担当課記入欄） |
|------|--|
| ⑩ | <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D <p>・森林保全ボランティア活動は、40回活動し、参加者595人（昨年度46回活動、651人参加）となっており、コロナ禍の中でも、多くの方に参加いただけた。 ・活動団体の固定化が続いていることから、新規団体の掘り起こしなどの対策が必要。 ・10月の森林環境学習フェア（もくもくランド）とオーテピアで令和4年1月に森林保全ボランティア活動を紹介するパネル展を実施し、啓発に努めた。 ・また、併せて「森・ヒト・こうち応援ネット」で参加者の募集を行う活動のHPへの掲載を行い、情報の増加に努め、令和3年度の累計訪問回数は17,807回と、前年度（15,265回）を上回った。</p> |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等（委員記入欄） |
|--------|--|
| ⑪ | <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 岡田 麻美 |
| 内線 | 4586 |

R3-15

| | |
|-------|---|
| ① 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金 |
| 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
|------------|----------|----------|---------|---------|---------|-------|
| ② 総事業費（千円） | 9,766 | 10,568 | 7,229 | 5,484 | 7,044 | |
| 財源内訳 | 森林環境税 | 9,766 | 10,568 | 7,229 | 5,484 | 7,044 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

| | |
|----------|------------------------------------|
| ③ 主な事業内容 | 「こうち山の日」に関する普及啓発事業に取り組む団体に対して補助する。 |
|----------|------------------------------------|

⑦ 事業内容（手段）

○事業区分
 【森づくり】 ①間伐 ②環境整備 ③植栽 ④竹林整備
 【木使い】 ⑤木工 ⑥木材普及
 【森林体験と教育】 ⑦森林体験 ⑧森林環境教育

【補助の仕組み】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会]
      B -- 補助 --> C[団体]
      B -- 補助 --> D[市町村]
    
```

| | |
|---|---|
| ④ | <p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成15年度</p> <p>○人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や森を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日（11月11日）」が制定された。</p> <p>○「こうち山の日」に対する県民の認知度は必ずしも高くないため、継続的に普及啓発をしていく必要がある。</p> |
| ⑤ | <p>目的とねらい（成果）</p> <p><目的> 「こうち山の日」制定趣旨に基づく取組を支援し県内各地で森林に対する普及啓発を行うことによって、県民の山への理解と関心を深める。また、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、自ら行動することによって山を守り次代へと引き継いでいくことを推進する。</p> |
| ⑥ | <p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>県民</p> |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 岡田 麻美 |
| 内線 | 4586 |

R3-15

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|----------------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 事業実施団体数（団体） | 20 | 20 | 20 | 12 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 県民参加人数（人） | 8,000 | 1,830 | 2,455 | 687 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 参加した県民一人当たりの経費（円） | 985 | 2,595 | 2,869 | 5,178 |
| | 算定式 事業費÷県民参加人数 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | ・事業実施主体は「こうち山の日」の制定趣旨に賛同し、積極的に森林や山への理解と関心を深める取り組みを行うことができる団体であり、様々なプログラムが実施された。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | ・感染症対策をとることで事業を実施する団体が増えてきつつあり、参加人数も伸びている。 ・また、屋外での実施やWEB開催に切り替える等の工夫をすることにより、幅広い内容の事業が実施され、一定の成果が確認できる実績であった。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | イベントの中止や人数制限を行ったことから、事業費に対して参加人数が少なかったことにより、目標値を下回っている。 |

| 総合評価 | 説明（担当課記入欄） |
|------------------------------------|---|
| ⑩ <input type="radio"/> A | ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策のため、各団体がイベントの中止や人数制限を行った。そのため、参加人数は、昨年度から増加しているが目標を下回っている。 ・年度末には事業報告会を行い、実施内容を各団体で共有できるようにしており、今年度は新型コロナウイルス感染対策の事例を共有した。どの団体も検温・消毒・マスク着用を徹底しており、イベントが実施できない場合はWEB配信に切り替えるといった工夫も見られている。 ・今後も感染症対策や活動への支援を継続するとともに、幅広い取り組みのPR等により新規に取り組む団体や多くの県民の取り組み参加に繋げたい。 |
| <input checked="" type="radio"/> B | |
| <input type="radio"/> C | |
| <input type="radio"/> D | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等（委員記入欄） |
|---------------------------------|-------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 | |
| <input type="radio"/> 事業を拡大 | |
| <input type="radio"/> 事業を縮小 | |
| <input type="radio"/> 休廃止を検討 | |
| <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 牛嶋 祥子 |
| 内線 | 3216 |

R3-16

| | | |
|---|-----|---|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：木育指導員活動支援事業費 ・当該事業名：木育指導員活動支援事業費補助金 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| 総事業費（千円） | — | — | — | 602 | 1,131 |
| ② 財源内訳 | 森林環境税 | — | — | 602 | 1,131 |
| | 一般財源 | | | | |
| | その他 | | | | |

| | | |
|---|--------|--|
| ③ | 主な事業内容 | 木育指導員を養成し、支援することを目的として実施する事業に対して補助金を交付する |
|---|--------|--|

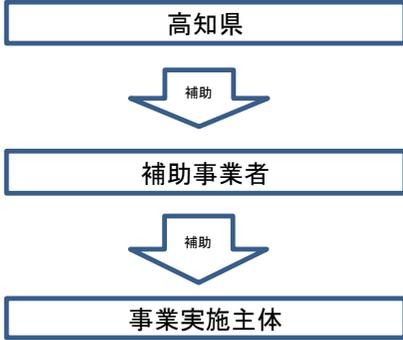
事業内容（手段）

- ・高知県から、一度補助事業者に補助金を交付し、補助事業者から事業実施主体に補助金を交付する間接補助により事業を実施。
- ・（1）指導者の養成研修、（2）指導者の派遣、（3）派遣先との連絡調整に要する経費について、事業実施主体に対して補助金を交付する。
- ・事業実施主体は、市町村・市町村教育委員会・県内に事務局等を置く法人、任意団体とする。
- ・補助率は定額とし、補助限度額は30万円とする。
- ・指導者の養成研修を行わない場合でも、当事業の活用にあたっては、指導者の養成等の観点も考慮した計画の作成をするよう要綱で規定。

| | | | |
|---|---|--------|-------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 令和2年度 |
| | <p>○県内では、一部の市町村が先進的に木育の普及に取り組み始め、県でも木材産業振興課が森林環境税を活用し、木製玩具等の配布を行う木育の取組への補助事業を実施しているが、木育の普及啓発は全県的に行われている状況ではなく、その意義も広く県民に理解されているという状況にはない。</p> <p>○また、県内で積極的に活動の場を掘り起こして木育の活動を行うことができる担い手も非常に少なくなっている。</p> | | |

⑦

【補助の仕組み】



| | | |
|---|-----------------|---|
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | ○現在、木育の活動を行っている方の活動を支援するとともに、新たな人材や活動の場を発掘するため、木育指導員の養成講座など、指導者の育成を目的とする事業に支援を行う。 |
| | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民 |

| | | |
|---|-----------------|----|
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民 |
|---|-----------------|----|

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 牛嶋 祥子 |
| 内線 | 3216 |

R3-16

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績値 |
|----------------------|-------------------|-------|-------|-------|--------|
| ⑧ I 活動指標 (アウトプット) | 事業実施回数(回) | 8 | 4 | 16 | 1 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 参加人数(人) | 160 | 271 | 527 | 9 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 参加した県民一人当たりにかかる経費 | 7,069 | 4,173 | 2,146 | 66,889 |
| | 算定式 事業費÷参加人数 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|--|
| ⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である | ・補助事業者による木育指導員支援(養成)の実施がないならば、県で事業を担う手段を検討できる。 |
| | <input type="radio"/> B. 概ね妥当である | |
| | <input checked="" type="radio"/> C. あまり妥当でない | |
| | <input type="radio"/> D. 妥当ではない | |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている | ・事業実施者は2団体だが、実施回数と参加人数は目標値より高かった。 |
| | <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている | |
| | <input type="radio"/> C. あまり上がっていない | |
| | <input type="radio"/> D. 上がっていない | |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い | ・木育指導員支援(養成)事業の実施がなかった。 |
| | <input type="radio"/> B. 概ね高い | |
| | <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない | |
| | <input type="radio"/> D. 高くない | |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|------------------------------------|--|
| ⑩ <input type="radio"/> A | <ul style="list-style-type: none"> ・もくもくエコランド等のイベントと連動した取組を行う団体があったため、参加人数が目標値を上回った。 ・指導者の育成(事業の広がり)的な観点からの取組もお願いしており、各団体には、事前に保護者の方や関係者に、木育とは何かや、木育の意義などを講習した上で事業を実施していただいている。事業実施者は2団体のみであったが、どちらの団体も上記の方法を用いて事業を実施した。この方法により、日頃から幼児等と接触のある人材に対する木育普及の働きかけと、受講者自身がその後の木育を担うことも可能となる。 ・事業計画書で提出されていた木育指導員支援(養成)については、新型コロナウイルス感染拡大時期と重なってしまい、全く実施されなかった。 |
| <input type="radio"/> B | |
| <input checked="" type="radio"/> C | |
| <input type="radio"/> D | |
| <input type="radio"/> D | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|---------------------------------|-------------------------|
| ⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 | |
| <input type="radio"/> 事業を拡大 | |
| <input type="radio"/> 事業を縮小 | |
| <input type="radio"/> 休廃止を検討 | |
| <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・**実績**）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-17

| | | |
|---|-----|--|
| ① | 事業名 | ・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：運営委員会等開催費 ・当該事業名：事務費 |
| | 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| | 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| 事業費の推移 | | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) |
|-----------|-------|----------|----------|---------|---------|---------|
| 総事業費(千円) | | 528 | 545 | 314 | 361 | 236 |
| ② 財源内訳 | 森林環境税 | 528 | 545 | 314 | 361 | 236 |
| | 一般財源 | | | | | |
| | その他 | | | | | |

| | | |
|---|--------|-------------------------------------|
| ③ | 主な事業内容 | 森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。 |
|---|--------|-------------------------------------|

事業内容（手段）

森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。

- 【主な取り組み】
- 1 基金運営委員会の開催 年2回
 - 2 現地視察 年0回
 - 3 事業評価の実施
 - ・各年度の当初、中間、実績のタイミングで委員会に状況を報告
 - ・報告内容から委員が事業評価を実施
 - ・継続実施や改善・拡充といった事業の見直し等、評価の結果を事業の運営に反映

| | | | |
|---|------------------------|--------|--------|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） | 事業開始年度 | 平成15年度 |
| | | | |

森林環境税による事業の仕組みについて



| | | |
|---|------------|--------------------|
| ⑤ | 目的とねらい（成果） | 森林環境保全基金の運営を適正に行う。 |
| | | |

| | | |
|---|-----------------|----|
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） | 県民 |
| | | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 林業環境政策課 |
| 担当者 | 上野 泰宏 |
| 内線 | 4586 |

R3-17

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績値 |
|---------------------|---------------------------|--------|---------|--------|--------|
| I 活動指標 (アウトプット) | 委員会等開催回数(回) | 6 | 1 | 2 | 3 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 基金運営委員会・・・5回 現地視察・・・1回 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 延べ委員出席者数(人) | 60 | 9 | 17 | 25 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 委員会一日一人あたりに要する経費(円) | 20,267 | 135,111 | 13,882 | 14,400 |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | ・事業の適正な執行のため開催は必要不可欠であり、開催は適正に行われた。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | ・多数の委員の参加を得て、事業評価や事業に対するご意見をいただくことができ、事業の適正な執行につながった。 ・説明する事業を選び、意見交換の時間を増やすことができた。 ・回数が目標には届かなかった。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 目標以上の事業コストで実施することができた。 |

| 総合評価 | 説明(担当課記入欄) |
|---|--|
| <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | 【最終報告】 ・各年度の事業評価については、資料の事前送付や、補足資料の送付、議題の重点化などにより、事業への理解を得られるよう取り組んでいるところであるが、事業の複雑さは引き続き課題となっている。 ・委員会の回数や内容については、委員長をはじめ各委員の意見を意見をいただきながら、過不足のない運営を実施していきたい。 ・森林環境税の今後のあり方を含め、委員をはじめ県民の理解をいただき意見を反映しながら事業が進められるよう引き続き取り組んでいきたいと考えている。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄) |
|--|-------------------------|
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 森づくり推進課 |
| 担当者 | 古賀 郁美 |
| 内線 | 4571 |

R3-18

| | |
|-------|--|
| ① 事業名 | ・細目事業名：林業大学校研修事業費 ・細々目事業名：短期課程研修事業費 ・当該事業名：林業大学校（短期課程）研修業務等委託料 |
| 大区分 | 県民の皆さんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| 小区分 | 県民の主体的な活動 |

| | |
|----------|-----------|
| ③ 主な事業内容 | 作業安全研修の開催 |
|----------|-----------|

| | |
|---|--|
| ④ | 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成17年度 ボランティア団体の中には、搬出間伐を行うところもあり、また、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用する活動組織も増えている。経験の浅い方が森林で作業する機会も増え、参加者の安全を確保するため、安全研修を充実させる必要がある。 |
| | 目的とねらい（成果） 森林保全ボランティア活動により森林整備を行う方を対象に、伐木作業等や車両系林業機械等の操作にかかる安全衛生に関する知識や技術の向上を図ることによって、現場の事故防止につなげることを目的とする。 |
| ⑥ | 対象（誰、何を対象とするのか） 県民（森林保全ボランティア） |

| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | |
|------------|----------|----------|---------|---------|---------|-----|
| ② 総事業費（千円） | 504 | 576 | 562 | 562 | 568 | |
| 財源内訳 | 森林環境税 | 441 | 491 | 562 | 562 | 568 |
| | 一般財源 | 85 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | |
|---|--|
| ⑦ | 事業内容（手段） 伐木等の作業安全研修にかかる講習を委託により実施 （委託先：（公財）高知県山村林業振興基金） 1. 作業安全研修 (1) 初級 ・チェーンソー特別教育（ボランティア） 回数：1回（3日間） 受講者数：4人／日 日程：2月11日～13日 (2) 中級 ・小型車両系建設機械（整地等）運転特別教育（ボランティア） 回数：1回（2日間） 受講者数：10人／日 日程：（学科）1月29日、（実技）1月30日 ・玉掛け技能講習（ボランティア） 回数：1回（3日間） 受講者数：9人／日 日程：（学科）2月19日、2月20日、（実技）2月23日 ・小型移動式クレーン運転技能講習（ボランティア） 回数：1回（3日間） 受講者数：5人／日 日程：（学科）1月15日、1月16日、（実技）1月23日 |
|---|--|

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|---------|
| 担当課・係名 | 森づくり推進課 |
| 担当者 | 古賀 郁美 |
| 内線 | 4571 |

R3-18

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|---------------------|-------------------------------|----------------|----------------|---------------|---------------|
| I 活動指標 (アウトプット) | 作業安全研修 (回) | 4 | 1 | 4 | 4 |
| | 算定式 初級、中級 | 初級1回 中級3回 | 中級1回実施 他未実施 | 初級1回 中級3回 | 初級1回 中級3回 |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 受講者数 (人) | 45 | 中級1回: 5 | 28 | 22 |
| | 算定式 初級、中級 | 初級10人 中級35人 | 他未実施 | 初級4人 中級24人 | 初級6人 中級16人 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 当事業に参加した県民一人当たり に要する経費 (円) | 15,533 | - | 20,256 | 25,545 |
| | 算定式 | 567,174円÷28人= | | | |
| | 算定式 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|----------------------------------|--|---|
| I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 当事業受託者は、林内作業にかかる安全研修を総合的に実施している県内で唯一の団体であり、妥当であった。 また、実施回数は、計画どおり4回開催した。 |
| II 成果 (意図した成果は上 がっているか) | <input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 作業安全研修については、全体目標（定員）45人に対し、実績28人、達成率62%となった。 【内訳】 初級1回：定員10人に対し、実績4人。 中級3回：定員35人に対し、実績24人。 ※申込39名、内11人キャンセル |
| III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか) | <input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 当初の計画人数（定員）を下回ったため、県民一人あたりに要する経費は予定より増加したが、研修にかかる費用は妥当な額である。 【参考】研修にかかる費用： 報償費、機械リース料等 |

| 総合評価 | |
|------|--|
| ○ A | 「実績報告」 初級 チェーンソー特別教育：実績4人／申込み11人／定員10人 【キャンセル理由】 ※新型コロナウイルス感染症拡大による受講のとり止め |
| ● B | 中級 玉掛け技能講習：実績9人／申込み9人／定員10人 小型車両系建設機械(整地等)運転特別教育：実績10人／申込み10人／定員15人 小型移動式クレーン運転技能講習：実績5人／申込み9人／定員10人 【キャンセル理由】 ※新型コロナウイルス感染症拡大による受講のとり止め |
| ○ C | |
| ○ D | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等（委員記入欄） |
|--|-------------------------|
| <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|--------------|
| 担当課・係名 | 木材産業振興課 需要拡大 |
| 担当者 | 小原 卓也 |
| 内線 | 4593 |

R3-19

| | |
|-------|---|
| ① 事業名 | ・細目事業名：高知県需要拡大対策事業費 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業 |
| 大区分 | 県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業 |
| 小区分 | 木材利用 |

| | |
|----------|--|
| ③ 主な事業内容 | 県内の公共的施設、学校施設及び屋外景観施設等への県産材を活用した木製品の導入や施設の整備、乳幼児への木製玩具等の配布に対して支援 |
|----------|--|

| | |
|---|--|
| ④ | <p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成20年度</p> <p>【背景】 本県の豊富な森林資源の有効活用に向けては、木材の利用を促進し需要を拡大することが重要であり、県民や次世代を担う子供達に対して、木との触れ合いや木の良さを実感する機会を幅広く提供することが必要である。</p> <p>【現況】 不特定多数の方が訪れる公共建築物の木質化及び施設内への木製品の導入や、幼稚園、小中学校、高等学校、大学校、専門学校等での木製の机、椅子、木のおもちゃ等の導入を支援し、また平成30年度から乳幼児に配布する木製玩具等の経費を補助する木育推進事業にも取り組み、多くの県民に対し木との触れ合いや木の良さを実感する機会を提供できるような取組を推進してきた。</p> <p>【課題】 これまで、幼稚園や学校、店舗等、様々な施設へ木質化、木製品の導入、木育の推進に取り組んできたが、より多くの事業体に本事業を活用いただくため、引き続きダイレクトメール等により本事業の周知を図る必要がある。</p> |
| ⑤ | <p>目的とねらい（成果）</p> <p>（目的） 木の良さをPRすることにより県産材の需要拡大を図り、本県の豊富な森林資源の活用につなげる。</p> <p>（ねらい） 県産材の利用が促進され需要を拡大することはもとより、木に触れる機会を創出することで、県民（乳幼児から大人まで）の木材利用に関する理解の醸成へとつなげる。</p> |
| ⑥ | <p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>次世代を担う子ども達及び一般県民等</p> |

| ② | <table border="1"> <tr> <th>事業費の推移</th> <th>H29(決算額)</th> <th>H30(決算額)</th> <th>R1(決算額)</th> <th>R2(決算額)</th> <th>R3(決算額)</th> </tr> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>33,160</td> <td>34,277</td> <td>33,939</td> <td>44,510</td> <td>38,442</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">財源内訳</td> <td>森林環境税</td> <td>33,160</td> <td>34,277</td> <td>33,939</td> <td>44,510</td> <td>38,442</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td>木育 510</td> <td colspan="2">※R2以降は木育も総事業費に含む</td> </tr> </table> | 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | 総事業費（千円） | 33,160 | 34,277 | 33,939 | 44,510 | 38,442 | 財源内訳 | 森林環境税 | 33,160 | 34,277 | 33,939 | 44,510 | 38,442 | 一般財源 | | | | | | その他 | | | 木育 510 | ※R2以降は木育も総事業費に含む | |
|----------|---|----------|----------|----------|------------------|---------|---------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|------|--|--|--|--|--|-----|--|--|--------|------------------|--|
| 事業費の推移 | H29(決算額) | H30(決算額) | R1(決算額) | R2(決算額) | R3(決算額) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総事業費（千円） | 33,160 | 34,277 | 33,939 | 44,510 | 38,442 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 財源内訳 | 森林環境税 | 33,160 | 34,277 | 33,939 | 44,510 | 38,442 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 一般財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他 | | | 木育 510 | ※R2以降は木育も総事業費に含む | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| ⑦ | <p>事業内容（手段）</p> <p>①公共的施設整備 ・補助内容：木質内外装整備等 ・補助先：市町村、社会福祉法人、医療法人等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額 4,000千円）</p> <p>②学校関連環境整備 ・補助内容：学校等の木質化内外装整備及び木製の机、椅子、遊具などを導入 ・補助先：市町村、社会福祉法人、学校法人等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額4,000千円、 小・中学校の内装木質化については限度額1,000万円）</p> <p>③屋外景観施設等整備 ・補助内容：木製のバス待合所や休憩所、案内看板等の屋外景観施設整備 ・補助先：市町村、団体等 ・補助率：1/2以内（補助金額50千円以上、限度額4,000千円）</p> <p>④木育推進 ・補助内容：乳幼児（満4歳の誕生日を迎えるまで）に木製の玩具等を配布 ・補助先：市町村等 ・補助率：1/2以内（限度額一人当たり5,000円以内）</p> |
|---|---|

令和3年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

| | |
|--------|--------------|
| 担当課・係名 | 木材産業振興課 需要拡大 |
| 担当者 | 小原 卓也 |
| 内線 | 4593 |

R3-19

| 指標の種類 | 指標名/算定式 | R3目標値 | R3中間値 | R3実績値 | R2実績 |
|---------------------|-------------------------|---|--|--|--|
| I 活動指標 (アウトプット) | 補助金投入金額（千円） | (公共) 12,321 (学校) 24,446 (屋外) 7,098 (木育) 1,134 (事務費) 286 | (公共) 9,838 (学校) 24,986 (屋外) 4,601 (木育) 994 (事務費) 286 | (公共) 9,838 (学校) 22,864 (屋外) 4,601 (木育) 947 (事務費) 192 | (公共) 11,478 (学校) 19,471 (屋外) 12,454 (木育) 866 (事務費) 241 |
| | 算定式 | 合計 45,285 | 合計 40,705 | 合計 38,442 | 合計 44,510 |
| | 算定式 | | | | |
| | 算定式 | | | | |
| II 成果指標 (アウトカム) | 施設利用者数、配布者数（人） | (公共) 381,547 (学校) 4,258 (屋外) 35,580 (木育) 243 | (公共) 331,900 (学校) 6,042 (屋外) 31,600 (木育) 212 | (公共) 329,700 (学校) 6,053 (屋外) 31,750 (木育) 201 | (公共) 965,240 (学校) 9,545 (屋外) 66,610 (木育) 184 |
| | 算定式 | | | | |
| | 整備箇所数（箇所） | (公共) 8 (学校) 36 (屋外) 30 (木育) 5 | (公共) 5 (学校) 32 (屋外) 29 (木育) 5 | (公共) 5 (学校) 32 (屋外) 29 (木育) 5 | (公共) 4 (学校) 33 (屋外) 5 (木育) 5 |
| | 算定式 | | | | |
| III 効率指標 (事業コスト) | 1人当たりPRコスト、配布コスト（円） | (公共) 32 (学校) 5,741 (屋外) 199 (木育) 4,667 | (公共) 30 (学校) 4,135 (屋外) 146 (木育) 4,689 | (公共) 30 (学校) 3,777 (屋外) 145 (木育) 4,711 | (公共) 12 (学校) 2,040 (屋外) 187 (木育) 4,707 |
| | 算定式 補助金投入金額/施設利用者数、配布者数 | | | | |
| | 1箇所当たり整備コスト（円） | (公共) 1,540,125 (学校) 679,056 (屋外) 236,600 (木育) 226,800 | (公共) 1,967,600 (学校) 780,813 (屋外) 158,655 (木育) 198,800 | (公共) 1,967,600 (学校) 714,500 (屋外) 158,655 (木育) 189,400 | (公共) 2,869,500 (学校) 590,030 (屋外) 2,490,800 (木育) 173,200 |
| | 算定式 補助金投入金額/整備箇所数 | | | | |

| 評価の項目 | 評価の結果 | 説明 |
|------------------------------|--|---|
| I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か) | <input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない | 公共的施設や屋外景観施設等、一度に多く県民へPRできる整備が多く、一定以上の効果があると考えられる。一方で、年度途中で発生した要望についても受け入れられる体制の必要性は感じた。 |
| II 成果 (意図した成果は上がっているか) | <input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない | 高速道路のパーキングエリアや、管内地域の広域を対象とした屋外での木製品の配備など、新しい実例も出てきており、県産材の利用が進んだ。 |
| III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか) | <input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない | 公共や学校の1施設辺りのコストは目標値よりも高くなっているが、一人あたりのコストについては下がっており、多くの人が関わる施設や製品への支援が多かったと考えられるため、効率性としては目標値以上のものとなっていると考えられる。 |

| 総合評価 | 説明（担当課記入欄） |
|---|--|
| <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D | ・公共的施設については、高速道路のパーキングエリアの整備や、交流センターや図書館などへの木製品の導入など、県産材のPRに高い効果があった。 ・学校関連施設については、幼稚園・保育園や小学校を中心に、木製品の導入が多く、次世代を担う子どもたちが早期から木に触れ、親しむ機会の創出につながっている。 ・屋外景観施設等整備については、CLTを使用した公園のトイレの木質化や、町内広域に木製ベンチを設置するなど、県民及び県外の方へ県産材のPRに一役買っている。 ・木育推進については、乳幼児及び保護者に県産材の良さを感じてもらう絶好の機会であり、木に親しむ継続的な機会の創出となっている。 ・今年度は新型コロナウイルスによる影響やウッドショックによる木材在庫の減少、価格の高騰などにより、当初予定していた事業を取りやめる、または規模を縮小する傾向があった。一方で、本事業に対しては多くの事業要望があり、こうした不安定な状況下だからこそ、本事業の必要性はさらに高まってきているといえる。 |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的方策に関する意見等（委員記入欄） |
|--|-------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続 | |